

実務経験のある教員による授業科目（総合政策学科2022年度以前入学生）

区分	2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
全 学 共 通 教 育 科 目	「人間たれ」	「人間たれ」I	②	○								兼 前川 督雄	鬼頭 浩文 他	1	
	情報倫理		②	○								兼 野呂 達哉	小林 慶太郎 他	23	
	情報と職業		2		○							兼 柳瀬 元志	黒田 淳哉	25	
	四日市学	四日市学	2	○									岡 良浩 他	27	
	人権論	「人間たれ」II	2		○								小林 慶太郎 他	30	
	地域社会と環境		2	○								兼	野呂 達哉	31	
	地域防災	防災とまちづくり	2	○								兼	鬼頭 浩文	32	オンデマンド授業
	地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2		▲								倉田 英司	33	
	社会福祉概論	社会福祉概論	2		○								松本 彩月	40	
	地学概論	地学概論	2	○								非	森 康則	55	オンデマンド授業
	生物と進化		2		○							兼	野呂 達哉	57	
	キャリア基礎 I	キャリア基礎b	2		○								三田 泰雅	60	
	キャリア基礎 II	キャリア基礎c	2			○							小林 慶太郎	61	
													小西 琴絵		
	インターンシップ	インターンシップa	2			▲							岡 良浩	66	
												兼	鬼頭 浩文		
	社会調査入門	社会調査入門	2	○									三田 泰雅	67	
	社会調査の技法	社会調査の技法	2		○								三田 泰雅	68	
	フィールドワーク論	フィールドワーク論	2			○							倉田 英司	72	
	社会調査実習1	社会調査実習1	2					○					倉田 英司	73	
	社会調査実習2	社会調査実習2	2						○				倉田 英司	74	
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2		○							非	石田 京子	85	
	ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーション	2			○						非	石田 京子	86	
	ビジネスマネジメント	経営分析論	2					○					二村 建也	88	
	マーケティング演習	マーケティング実践論	2					○					川崎 綾子	89	
	おもてなし特別講義a	経営ケーススタディ	2				○						岡 良浩	90	
												川崎 綾子			
メディアツールb		2		○							非	西尾 秀樹	102		
メディアツールc		2			○						非	瀧 智英	103		
メディアツールd		2				○					兼	柳澤 翔士	104		
インターネット論	ITリテラシー	2			○						兼	柳澤 翔士	107		
専 門 教 育 科 目	政策科学入門	政策科学入門 I	②	○									小泉 大亮 他	108	
	政策過程論	法とまちづくり	2				○						小林 慶太郎	187	
	政策法務	警察行政と安全	2						○				小林 慶太郎	191	
	地域福祉論	地域福祉論	2			○							松本 彩月	194	
	社会保障論	社会保障論	2				○						松本 彩月	195	
	コミュニティ論	市民社会論	2	○									松本 彩月	199	
	NPO論	市民とまちづくり	2				○						小林 慶太郎	201	
												兼	鬼頭 浩文		
	マイノリティ政策	ダイバーシティ社会論	2	○									小林 慶太郎	202	
	金融論	金融論	2			○							二村 建也	229	
	国際経営論	管理会計論	2				○						二村 建也	230	
	簿記入門	簿記入門	2		○								二村 建也	233	
	会計学総論	会計学総論	2		○								二村 建也	234	
	財務諸表論	財務諸表論	2				○						二村 建也	235	
	ものづくり経営	商業簿記	2			○							二村 建也	240	

授業科目名	「人間たれ」		科目コード	171001	授業コード	125101
担当教員	鬼頭 浩文、足立 明信、青木 陽子、樋口 晶子、黒田 淳哉、大八木 麻希、柳瀬 元志		科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。					
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。					
授業計画	<p>第1講 4/11 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」と能登半島地震と学友会と</p> <p>第2講 4/18 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～</p> <p>第3講 4/25 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～</p> <p>第4講 5/9 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～</p> <p>第5講 5/16 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所運営を経験して（齋藤）</p> <p>第6講 5/23 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が被災して（鈴木&amp;北村）</p> <p>第7講 5/30 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難所をどう見たか（雁部）</p> <p>第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館</p> <p>第10講 6/20 教員が語る「人間たれ」①（足立）</p> <p>第11講 6/27 教員が語る「人間たれ」②（大八木）</p> <p>第12講 7/4 教員が語る「人間たれ」③（黒田）</p> <p>第13講 7/11 教員が語る「人間たれ」④（樋口）</p> <p>第14講 7/18 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬）</p> <p>第15講 7/25 教員が語る「人間たれ」⑥（青木）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す					
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成					
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	情報倫理	科目コード	171202	授業コード	123110
担当教員	前川 督雄、野呂 達哉	科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	環境情報学部で学ぶ皆さんは、環境・情報・メディアいずれかの領域で専門家（プロフェッショナル）となるための素養が求められます。一般人やユーザではなく、専門家として、どのような立ち位置で、どのようにものごとを見て、どのように振る舞うことが求められるか、多方面の観点から知り、考えてもらう講義です。				
到達目標	専門家・プロフェッショナルの立場からの倫理・責任を、できるだけ広く俯瞰して、当事者となっていく自覚をもつ。				
授業計画	第1講 ガイダンス/専門家とは 第2講 専門家として 個人情報への扱い 第3講 専門家として 著作権の扱い 第4講 専門家として AIの扱い 第5講 研究者として 科学体系の成り立ち/研究するとは/改竄・捏造が及ぼす影響 第6講 研究者として 実験における倫理 第7講 研究者として 社会に対する責任/共同や連携、学際研究を行う際の倫理 第8講 技術者として 安全確保と保守/社会に対する責任 第9講 技術者として 業界標準の意義/知的財産/企業秘密と守秘義務 第10講 環境技術者として 生態系のなかの人間活動 第11講 環境技術者として フィールドワークにおける倫理/地域や海外での活動倫理 第12講 メディア情報技術者として 表現するとは/表現における倫理 第13講 メディア情報技術者として 情報セキュリティと倫理 第14講 メディア情報技術者として オープンソースという貢献 第15講 まとめ 組織の一員であること/ダイバーシティへの配慮/ハラスメントの防止 (内容・順序を変更することがあります)				
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。 講義中に、参考映像を視聴することがあります。				
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（60分）。毎回の授業の後に復習するとともに、不明点を調べ、自分の思考・行動を振り返って考えを深めて下さい（120分）。				
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。				
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。				
実務経験のある教員	担当教員は専門領域のプロフェッショナルとして実務に従事してきている。				
担当者から一言	新しく設立した科目です。試行錯誤しながら進めます。				

授業科目名	情報と職業	科目コード	171204	授業コード	123808
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志	科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	講義の前半は自らが地域イベントにスタッフとして参加し、地域を体験的に理解することから始めます。後半は、メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信を行っている方々の声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。</li> <li>・この学びを、地域に関連した研究活動や将来のビジョンへと繋げる。</li> </ul>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、授業の概要</p> <p>第2講 地域と繋がる体験1（オンデマンド予定）</p> <p>第3講 地域と繋がる体験2（オンデマンド予定）</p> <p>第4講 地域と繋がる体験3（10/16木5限目予定）</p> <p>&lt;イベント参加10/18(土)&amp;10/19(日)予定&gt;</p> <p>※イベントスタッフとして2日間参加することが、第5～7講の講義になります。</p> <p>第5講 地域と繋がる体験4</p> <p>第6講 地域と繋がる体験5</p> <p>第7講 地域と繋がる体験6</p> <p>&lt;ゲストを招いた講義&gt;</p> <p>第8講 地域のイベント</p> <p>第9講 イベント業界と仕事について</p> <p>第10講 放送業界と仕事について</p> <p>第11講 地域の放送局</p> <p>第12講 地域のメディア</p> <p>第13講 地域のIT 1</p> <p>第14講 地域のIT 2</p> <p>第15講 地域のICT</p>				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	<p>毎回、講義の最後に課題を提します。</p> <p>予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。</p> <p>復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。</p>				
成績評価方法	定期試験は行いません。受講態度と講義で提出するレポートで評価し、合算します。				
授業内の課題・提出方法	授業内もしくはMoodleでミニツッペーパーやレポートを提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツッペーパーへの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	実習、ディスカッション、グループワーク				
実務経験のある教員	関連領域で実務経験を持つ教員がこの講義の進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。				
担当者から一言	講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。				

授業科目名	四日市学	科目コード	171301	授業コード	125201
担当教員	岡 良浩、青木 陽子、倉田 英司、鬼頭 浩文、小林 慶太郎、永井 博	科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境など多面的に四日市について理解する機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただきたいと思います。				
到達目標	講義は13回にわたる様々なテーマの座学とフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること				
授業計画	第1講(4/11) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡) 第2講(4/18) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会];四日市公害と環境未来館) 第3講(4/25) 「四日市の産業」(岡[司会];四日市市商工農水部) 第4講(5/9) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義]) 第5講(5/16) 「四日市の歴史」(永井[司会];四日市市博物館学芸員) 第6講(5/23) 「四日市の多文化共生」(青木[司会];四日市市多文化共生推進室) 第7講(5/30) 「四日市の食」(小林[司会・講義]) 第8講(6/6) 「四日市の都市計画」(倉田[司会];四日市市都市整備部) 第9講(6/13) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会];四日市市文化課) 第10講(6/20) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会];四日市市シティプロモーション部) 第11講(6/27) 「四日市市の危機管理と防災」(鬼頭[司会];四日市市危機管理統括部) 第12講(7/4) 「四日市市の子育て支援」(松本[司会];四日市市子ども未来部) 第13講(7/11) 「四日市市の行財政」(小林[司会];四日市市財政経営部)  フィールドワーク(第14・15講分) 四日市市博物館等でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。(Moodleでの配布を予定)				
事前・事後学習	事前学習:講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習(90分程度)事後学習:講義中の課題を行う(90分程度)				
成績評価方法	以下の3つで総合評価します。 講義中の課題(リアクションペーパー)各200字程度(60%) フィールドワークに関するレポート(20%) 学期末試験(20%)				
授業内の課題・提出方法	毎回、課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいます。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	人権論	科目コード	171304	授業コード	125501
担当教員	小林 慶太郎、浅井 雅、二村 建也、倉田英司、フェリペ フェハリー、永井 博	科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。				
授業計画	<p>第1講（9/26）ガイダンス「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林）</p> <p>第2講（10/3）情報リテラシーと犯罪対策（三重県警サイバー犯罪対策課）</p> <p>第3講（10/10）日本の財政状況と税金（財務省 津財務事務所）</p> <p>第4講（10/17）お金をうまく管理しよう①（二村）</p> <p>第5講（10/24）お金をうまく管理しよう②（二村）</p> <p>第6講（10/31）お金をうまく管理しよう③（二村）</p> <p>第7講（11/7）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員））</p> <p>第8講（11/14）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ホック・モビヌルさん）</p> <p>第9講（11/21）教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（永井）</p> <p>第10講（11/28）世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林）</p> <p>第11講（12/5）教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（倉田）</p> <p>第12講（12/12）外国人研修生の日本での生活紹介および子供の森計画について（オイスカ）</p> <p>第13講（12/19）教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（浅井）</p> <p>第14講（1/9）教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（フェハリー）</p> <p>第15講（1/16）教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（小林）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序・内容は変更になる場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。				
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。				
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	171305	授業コード	125309	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GEC1005			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」を取りあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災	科目コード	171306	授業コード	125307
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)				
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。				
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド</p> <p>1 4/11 ガイダンス(対面)/補講1；近年の災害/第15講；地震・津波/第16講；風水害/第11講；復旧・復興</p> <p>2 4/18 第20講；災ボラ/第14講；事業継続/第6講；ハザードマップ</p> <p>3 4/25 補講2；耐震/第12講；医療/第18講；避難所</p> <p>4 各自 普通救命講習(市町の消防本部など)</p> <p>自分の住む市町か、四日市市で、各自で申し込み受講し、修了証のコピーを提出する</p> <p>5～7 5/24 防災士養成講座(会場研修)①</p> <p>8～10 5/25 防災士養成講座(会場研修)②</p> <p>11 5/24 第1講；地震・津波/第2講；気象災害/第3講；土砂災</p> <p>12 5/31 第4講；火山/第5講；火災/第7講；情報と予報・警報</p> <p>13 6/7 第8講；災害情報/第9講；行政/第10講；行政の対策</p> <p>14 6/14 第13講；ライフライン/補講3；損害保険/第17講；自主防</p> <p>15 6/21 第19講；多様性/第21講；防災士の役割/補講4；各種訓練</p> <p>学期末試験：7/4</p> <p>★8月3日(日)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。				
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。				
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。				
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。				
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。				
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。				
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。				

授業科目名	地域連携特別講義 a		科目コード	171307	授業コード	126503	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GEC1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料等を配布する場合があります。						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	社会福祉概論		科目コード	171407	授業コード	121605	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GLAS1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習180分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	地学概論	科目コード	171606	授業コード	121101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある事例を交えながら学んでいきます。				
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）期末課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNIPAを使って、アナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。				
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を薦めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				

授業科目名	生物と進化	科目コード	171608	授業コード	123510
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。				
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理 1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理 2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。				

授業科目名	キャリア基礎 I		科目コード	171701	授業コード	121701
担当教員	三田 泰雅、二村 建也、小西 琴絵、松本 彩月、岡 良浩、鶴田 利恵		科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる					
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①キャリアとは 3 労働②キャリアを考えるには 4 労働③現代社会の職業 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③世界の中の日本の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて					
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。					
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）					
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。					
アクティブラーニング	小レポート					
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。					
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ	科目コード	171702	授業コード	123301
担当教員	小林 慶太郎、小西 琴絵	科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。				
授業のねらい	この科目では、前の学期に引き続き、卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えていきます。自分の「就きたい職業」や「働きたい業界」をどのように見つけ、そして、就職活動をどのように進めていったら良いのか、実践も交えながら探っていきます。現在の日本の就職事情等をしっかり把握し、自ら主体的に行動できるようになることをねらいとしていますので、進学等を予定しているなどで卒業後すぐに就職をしないつもりの方の学生にとっても、有益な授業になるはずです。				
到達目標	以下の3つの到達目標があります 1. なぜ、どのような仕事に就きたいのかを、自らの言葉で説明できるようになる（志望理由） 2. 自らがどんな人間であるのかを長所・短所も含めて客観視して説明できるようになる（自己PR） 3. 自らの大学生活を振り返り、どのようなことに取り組み、どのような力を育んできたのかを説明できるようになる（ガクチカ）				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 就職活動のすすめ方 第3講 インターンシップ・オープンカンパニーのすすめ 第4講 自己分析 第5講 エントリーシート・履歴書対策 第6講 業界・企業研究 第7講 面接対策 第8講 グループディスカッション対策 第9講 筆記試験対策 第10講 就職活動マナー 第11講 業界・企業セミナー① 第12講 業界・企業セミナー② 第13講 業界・企業セミナー③ 第14講 働く者の権利 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	適宜、資料などを配布する予定です。				
事前・事後学習	新聞やニュース、特に自らの志望する業界などに関するものに、しっかり目を通すこと（1日20分以上）。しっかり復習をし、夏のオープンカンパニーや就職活動の開始に備えること。				
成績評価方法	日頃の課題等への取組状況：60% 期末試験：40%				
授業内の課題・提出方法	ゲストスピーカーによって異なるため、授業中に指示する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降の授業中にコメントする。				
アクティブラーニング	実際に書類を書く練習をしたり、グループワークを行ったりする予定である。				
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、企業等において、就職活動等に関する情報を多く収集し、指導実績も豊富な方々です。				
担当者から一言	大学生活も振り返り点を過ぎました。自身の将来、卒業後の進路を見据えて、真剣に取り組んでいってください。				

授業科目名	インターンシップ	科目コード	171804	授業コード	126101
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GES1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。				
授業のねらい	大学の長期休暇などで、5社以上のオープンカンパニー（1社3時間以上）に参加する。これにより、働くことについて深く理解することが本講義のねらいである。安易な受講は避けてほしいが、社会人になる準備の科目ととらえ、積極的に履修してほしい。				
到達目標	仕事・業界について知り、働くことへの理解を深める。				
授業計画	<p>★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること</p> <p>★詳細は、履修要綱に記載</p> <p>5月（10月）説明会/申込</p> <p>6月（11月）事前学習</p> <p>7月（12月）事前研修</p> <p>8月～9月（2月～3月）</p> <p>オープン・カンパニー</p> <p>10月（3月）事後学習</p> <p>11月（3月）単位認定</p> <p>*（ ）は春季スケジュール</p>				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	オープンカンパニーは、会社の説明や実際に働く人たちの日常を知る機会であるが、ときにはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	気軽にチャレンジしてほしいが、安易な考えで受講することは、しないでほしい。なお、オープンカンパニーは平日昼に実施されることが多い。当然、アルバイトやクラブ活動でドタキャンすることは認められない。				

授業科目名	社会調査入門		科目コード	172101	授業コード	123206	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GSSR1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1ガイダンス 2社会調査の目的と意義 3社会調査の歴史 4社会調査の種類と方法 5質的調査1：インタビューの実例 6質的調査2：参与観察の実例 7質的調査3：ドキュメント分析の実例 8量的調査1：質問紙調査の実例 9量的調査2：二次分析の実例 10量的調査3：電話調査とウェブ調査 11サンプリングの歴史 12公的統計の意義と活用 13社会調査の展開1：社会地図の方法 14社会調査の展開2：アクションリサーチ 15調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法		科目コード	172102	授業コード	123604	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GSSR1002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。						

授業科目名	フィールドワーク論	科目コード	172106	授業コード	123403
担当教員	倉田 英司	科目ナンバリング	GSSR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。				
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. フィールドワークとは</li> <li>3. フィールドワークによる調査事例</li> <li>4. 目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区</li> <li>5. 地区内の現状把握手法（データ分析）</li> <li>6. 地区内の課題把握手法（データ分析）</li> <li>7. 地区内の現状把握手法（聞き取り調査）</li> <li>8. 地区内の課題把握手法（聞き取り調査）</li> <li>9. 地区内の現状把握手法（参与観察）</li> <li>10. 地区内の課題把握手法（参与観察）</li> <li>11. 地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方</li> <li>12. 調査結果の考察手法</li> <li>13. 調査結果を踏まえた提言手法</li> <li>14. 最終レポートのガイダンス</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。				
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。				
成績評価方法	<p>以下のような配分で評価する。</p> <p>①講義への参加度（発言等）：30%</p> <p>②各回のレポート：30%</p> <p>③最終レポート：40%</p> <p>なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。</p>				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。				
アクティブラーニング	ミニツツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク				
実務経験のある教員	<p>行政での委員経験があります。</p> <p>講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、フィールドワーク調査を行います。</p>				
担当者から一言	<p>知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。</p> <p>フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。</p>				

授業科目名	社会調査実習 1	科目コード	172107	授業コード	122405
担当教員	倉田 英司	科目ナンバリング	GSSR1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。特に、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。				
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査を通じて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 問題の整理</li> <li>3. 対象について学ぶ</li> <li>4. 問いを立てる</li> <li>5. 先行研究をさがす</li> <li>6. 先行研究の検討(1)</li> <li>7. 先行研究の検討(2)</li> <li>8. 仮説の形成</li> <li>9. 調査項目の洗い出し</li> <li>10. 調査表作成の基礎</li> <li>11. 調査票の作成(1)</li> <li>12. 調査票の作成(2)</li> <li>13. 調査票の完成</li> <li>14. 調査の実施</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。				
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）。				
成績評価方法	<p>以下のような配分で評価する。</p> <p>①実習への参加度 50%</p> <p>②期末レポート 50%</p>				
授業内の課題・提出方法	不定期に中間報告の機会を設けます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。				
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク				
実務経験のある教員	<p>行政での委員経験があります。</p> <p>講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。</p>				
担当者から一言	<p>この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。</p> <p>社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習2」の単位も取得する必要があります。</p>				

授業科目名	社会調査実習2	科目コード	172108	授業コード	122803
担当教員	倉田 英司	科目ナンバリング	GSSR1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。(5)レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。				
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. データの整理</li> <li>3. データ入力(1)</li> <li>4. データ入力(2)</li> <li>5. データ分析の基本</li> <li>6. データの分析(1)</li> <li>7. データの分析(2)</li> <li>8. 分析結果の報告(1)</li> <li>9. 分析結果の報告(2)</li> <li>10. 分析結果の報告(3)</li> <li>11. レポートのまとめ方</li> <li>12. 報告原稿の発表(1)</li> <li>13. 報告原稿の発表(2)</li> <li>14. 報告原稿の発表(3)</li> <li>15. 報告書の作成</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。				
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）。				
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%				
授業内の課題・提出方法	不定期に報告機会を設けます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。				
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク				
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。				
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習1」の単位も取得する必要があります。				

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	172301	授業コード	125601	
担当教員	石田 京子		科目ナンバリング	GSHM1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの初級者として、様々な理論や技術の基礎を学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人には、この社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけビジネスマナーやビジネススキルを中心に、実社会に必要な相手目線（顧客）を意識した自己表現力を磨き、身						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人としてのマナーの基本を学び習得することで、社会生活の様々なシーンで適切な基本的実践行動ができるようになることです。</li> <li>2. 人間関係の土台であるコミュニケーションスキルを基本的に学び、そのエビデンスである心理学を理解し考察することで、相手目線に立ち、その場と関わりに応じた適切な自己表現ができるようになることです。</li> </ol>						
授業計画	第1講 ガイダンス 挨拶の基本 第2講 マナーとコミュニケーション概論 第3講 一般的なマナー①表情・声・身体表現 第4講 一般的なマナー②敬語 第5講 ビジネスマナー①職場のルール・報連相・電話対応 第6講 ビジネスマナー②受付・案内・席次・名刺交換 第7講 ビジネスマナー③ビジネス文書・ビジネスメール 第8講 第一印象力 第9講 話す力 第10講 聴く力 第11講 考える力（主体的論理的思考） 第12講 クレーム対応・ハラスメント基礎・アンガーマネジメント基礎 第13講 プレゼンテーション原稿づくり 第14講 プレゼンテーション個人発表 第15講 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント等を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。						
成績評価方法	定期テスト50%、小テスト25%、出席時の積極的態度と発言25%。						
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修に携わる。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。周りの人々と心から繋がりが合い、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築しましょう。意欲的で実行力のある学生の受講を望みます。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション	科目コード	172304	授業コード	122402
担当教員	石田 京子	科目ナンバリング	GSHM1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義は笑顔とホスピタリティ溢れる接客技術や、説明力・説得力・プレゼンテーション力などを含む会話術を中心に行います。こ				
到達目標	①ビジネス社会において、人間関係の土台であるコミュニケーションスキルの理論と実践を応用的に学び習得することで、様々なビジネスシーンで相手とその関係性において適切な自己表現行動ができるようになることです。 ②接客技術や会話術を、エビデンスと実践練習で学び習得することで、主体的に考え、判断し、有言実行し、地域社会に貢献できるスキルをもつようになることです。				
授業計画	第1講 ガイダンス 仕事の意義・挨拶の基本 第2講 コミュニケーション概論・ホスピタリティ理論 第3講 パフォーマンス心理学 場と関わりの自己表現 第4講 第一印象力・電話応対 第5講 接客力・名刺交換 第6講 ビジネス文書・ビジネスメール 第7講 コンプライアンス・リスク管理・ハラスメント 第8講 心理学 セルフコーチング 第9講 心理学 交流分析 第10講 心理学 アサーティブコミュニケーション 第11講 合意形成（コンセンサス） 第12講 論理的思考力・説明力・説得力 第13講 プレゼンテーション1 第14講 プレゼンテーション2 第15講 総まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。				
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント等を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。				
成績評価方法	定期テスト50%、小テスト25%、出席時の積極的態度と発言25%。				
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。				
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。				
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修。就活の面接指導。				
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。心から繋がりがあい、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築するために、自身のスキルや人間力を磨きましょう。周りと共に生き、なりたい自分になるために切磋琢磨する学生を望みます。				

授業科目名	ビジネスマネジメント		科目コード	172307	授業コード	125203	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	GSHM1007			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この「経営分析論」では企業の決算書（財務諸表）などを使って分析することを学びます。第4講までで財務諸表のなかでも特に重要な貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の要点を理解しましょう。次に経営（財務）分析の手法や指標の意味・使い方を観点ごとに学びます。第10講以降は、実存する企業の公開されている財務諸表を使って分析します。ライバルである企業どうしの比較などで経営分析についての理解を深め定着させてください。						
到達目標	<p>(1) 財務諸表の要点を理解する。</p> <p>(2) 経営分析の手法を財務諸表の各項目の意味と合わせて理解する。</p> <p>(3) 企業の財務諸表だけでなく、ビジネスモデルや競争戦略なども考慮して経営分析ができる。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 貸借対照表</p> <p>第3講 損益計算書</p> <p>第4講 キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第5講 経営分析のための準備</p> <p>第6講 安全性の分析</p> <p>第7講 収益性の分析</p> <p>第8講 効率性の分析</p> <p>第9講 成長性の分析</p> <p>第10講 ケース (1) 連結決算</p> <p>第11講 ケース (2) セグメント情報とビジネスモデル</p> <p>第12講 ケース (3) 小売・飲食・サービス</p> <p>第13講 ケース (4) IT</p> <p>第14講 ケース (5) メーカー</p> <p>第15講 まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキストは指定しません。資料は適宜配布します。</p> <p>参考文献：桜井久勝「財務諸表分析 第9版」中央経済社（2024年）、定価：3740円（税込）</p>						
事前・事後学習	<p>「経営分析論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。</p> <p>事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。そのうえで、上場企業の財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください。また日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（180分）。</p>						
成績評価方法	<p>(1) 小テスト・平常点（受講態度など）：30%</p> <p>(2) 課題（2回）：30%（15%×2）</p> <p>(3) 定期試験：40%</p>						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第8講・第10講予定）実施します。課題はMoodleまたはメールで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと課題については全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務・ビジネスモデル・競争戦略などの比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	マーケティング演習		科目コード	172308	授業コード	122408	
担当教員	川崎 綾子		科目ナンバリング	GSHM1008			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、成功企業の事例を理解した上で、企業のマーケティング戦略について考察する。考察を通じて、実践的なマーケティングの理解を深めることを、本講義のねらいとする。						
到達目標	成功企業の事例について学んだ上で、その企業を成功に導いた根本的な理由について考察する。その上で、他のビジネスへの応用可能性について検討する。既存のマーケティング戦略の改善案や新たな戦略案を提示できる。						
授業計画	<p>第1回 4/8 ガイダンス</p> <p>第2回 4/15 マーケティングの基本的な考え方</p> <p>第3回 4/22 マーケティングの分析軸</p> <p>第4回 4/29 事例研究①</p> <p>第5回 5/13 事例研究②</p> <p>第6回 5/20 中間レポートの発表①（予定）</p> <p>第7回 5/27 中間レポートの発表②（予定）</p> <p>第8回 6/3 中間レポートの発表③（予定）</p> <p>第9回 6/10 事例研究③</p> <p>第10回 6/17 事例研究④</p> <p>第11回 6/24 事例研究⑤</p> <p>第12回 7/1 事例研究⑥</p> <p>第13回 7/8 最終レポートの作成と発表①</p> <p>第14回 7/15 最終レポートの作成と発表②</p> <p>第15回 7/22 最終レポートの作成と発表③</p> <p>※外部講師によるご講義の回を予定しています。 （第1回のガイダンス時に詳細を説明予定です） ただし川崎による講義に代える場合があります</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>教科書（テキスト）</p> <p>大崎孝徳（2016）『すごい差別化戦略』日本実業出版社</p> <p>ISBN-13：978-4534053480</p>						
事前・事後学習	マーケティングや企業経営に関するニュースに目を通すことを心がけること（30分程度、週2日以上）。講義内容を復習し、既存のマーケティング戦略の長所や短所について考える時間をもつことが望ましい（1時間程度）。						
成績評価方法	<p>中間レポートと発表 50%</p> <p>最終レポート（レポート試験）と発表 50%</p> <p>※レポートの内容だけでなく、発表態度や発表を聴く態度も含む。 受講者数が多く、発表の時間が取れない場合は レポートの内容と聴講態度で評価する</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>①毎回の出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること</p> <p>②中間レポートと最終レポートも、moodleから提出してもらう予定。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>中間レポートについては、講義中にコメントします。 履修者数が多く、全員の発表時間が取れない場合は 優秀な中間レポートを、前のスクリーンで紹介する予定です。</p>						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして企業のかたにご講義いただく予定です						
担当者から一言	<p>実践的なマーケティングを学ぶ機会になれば幸いです。自ら進んで学ぶ姿勢をもって取り組める人は、是非受講してください。</p> <p>※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、 2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります。</p>						

授業科目名	おもてなし特別講義 a		科目コード	172309	授業コード	123610	
担当教員	岡 良浩、川崎 綾子		科目ナンバリング	GSHM1009			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。具体的には「三重のサステナブル経営アワード」をとりあげ、受賞企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。またこの制度を含めた中小企業振興施策を実施されている三重県庁の方や、教員からみた経営のケーススタディについてもお話す予定です。全体として成功の要因について、共通する点・他企業・他業態への応用の可能性など普遍化できるかを考察していきたいと思えます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営の成功事例を理解する。</li> <li>・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。</li> </ul>						
授業計画	第1回 9/24 ガイダンス 第2回 10/1 外部講師による講義（三重県） 第3回 10/8外部講師（企業経営者）による講義① 第4回 10/15外部講師（企業経営者）による講義② 第5回 10/22中間レポート1 第6回 10/29 外部講師（企業経営者）による講義③ 第7回 11/5外部講師（企業経営者）による講義④ 第8回 11/12外部講師（企業経営者）による講義⑤ 第9回 11/19 中間レポート2 第10回 11/26外部講師（企業経営者）による講義⑥ 第11回 12/3 外部講師（企業経営者）による講義⑦ 第12回 12/10 外部講師（企業経営者）による講義⑧ 第13回 12/17中間レポート3 第14回 1/7 まとめ1 第15回 1/14まとめ2 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、適宜、講義中にお知らせします。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポート 30% 定期試験（レポート試験） 30%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただきます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、Moodle内でコメントをつけてフィードバックします。						
アクティブラーニング	講義中に、質疑やグループディスカッション等が求められることがあります。積極的に参加することが求められます。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。						
担当者から一言	この講義は公開授業とする予定です。一般の方と一緒に受講していただきます。履修者は、社会人としてのマナーを守って受講してください。						

授業科目名	メディアツールb	科目コード	172502	授業コード	125607
担当教員	西尾 秀樹	科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーションカアップを目的としたスキル習得していきます。				
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス</li> <li>2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど）</li> <li>3.色調整・サイズ調整</li> <li>4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など）</li> <li>5.選択範囲作成1（画像の切り抜き）</li> <li>6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など）</li> <li>7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小</li> <li>8.ペイント・色変換</li> <li>9.文字入力・加工/フィルター・その他ツール</li> <li>10.デザインの実践1（バナーデザインなど）</li> <li>11.デザインの実践2（illustratorとの連動）</li> <li>12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成）</li> <li>13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用）</li> <li>14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成）</li> <li>15.合評会</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。				
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 [これ面白い画像だな] とか [どうやって作ったんだろう] という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。				
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習を行います。				
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。				
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				

授業科目名	メディアツールc		科目コード	172503	授業コード	124110	
担当教員	瀬瀬 智英		科目ナンバリング	GSMD1003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業は、Adobe Premiere Proを使用し、動画編集の基本技術を習得することを目指します。初心者や基礎から学び直したい方を対象に、編集ソフトの操作方法や映像編集の手法を学びながら、映像制作の基礎力を身につけます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Adobe Premiere Proの基本的な操作を習得する。</li> <li>・ 動画編集に必要な基本的技術や手法を理解する。</li> <li>・ タイムラインの編集やエフェクトの活用など、編集ソフトの機能を適切に活用できる。</li> </ul>						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：初期設定・ワークスペースの理解・基本操作 第3回：素材の取り込みと整理 第4回：タイムラインと基本編集操作 第5回：映像の接続とトランジションの適用 第6回：簡易なアニメーション・キーフレーム操作 第7回：テロップ（字幕・タイトル）の挿入 第8回：頻度の高いエフェクトの利用① 第9回：頻度の高いエフェクトの利用② 第10回：オーディオ素材の取り扱いと編集基礎 第11回：オーディオ素材のエフェクト 第12回：色調整とカラーグレーディング 第13回：書き出しとレンダリング 第14回：全体のワークフロー理解と実践演習 第15回：実践演習内容のおさらい						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。						
事前・事後学習	予習：課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分） 復習：配布資料や講義ノートを見直すなど復習しておくこと（90分）						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義内で実施する数回の習熟度テスト（70%）</li> <li>・ 課題への取り組み姿勢（30%）</li> </ul>						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。						
アクティブラーニング	実習						
実務経験のある教員	映像制作業 代表。現場にて必要とされる基礎的なスキルをわかりやすく指導します。						
担当者から一言	Premiere Proの基礎を楽しくしっかり学び、みなさんが自信を持って映像編集にチャレンジできる環境づくりをサポートします。共に成長し、充実したクリエイティブライフを始めましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールd		科目コード	172504	授業コード	122605
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。					
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身につける。					
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス・基礎知識</li> <li>2.コンピュータをつかった音楽制作とは</li> <li>3.音楽の基礎</li> <li>4.ループ音源を組み合わせる1※</li> <li>5.ループ音源を組み合わせる2※</li> <li>6.楽譜を音にする1※</li> <li>7.楽譜を音にする2※</li> <li>8.エフェクトとは</li> <li>9.MixDownとは※</li> <li>10.生音の加工1※</li> <li>11.生音の加工2※</li> <li>12.効果音の世界1※</li> <li>13.効果音の世界2※</li> <li>14.音作品製作1※</li> <li>15.音作品製作2※</li> </ol> <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>					
テキスト・教材（参考文献）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>					
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかりと聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>					
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>					
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>					
アクティブラーニング	Mac実習					
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有					
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>					

授業科目名	インターネット論		科目コード	172509	授業コード	123402
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。					
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。					
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税					
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有					
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。					

授業科目名	政策科学入門		科目コード	471001	授業コード	123302	
担当教員	小泉 大亮、浅井 雅、二村 建也、川崎 綾子、倉田 英司、松本 彩月、三田 泰雅、吉川 和挟、富田 与、鶴田 利恵、中西 紀夫、永井 博		科目ナンバリング	PFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では総合政策学部専門教育科目を履修する準備をします。教員が担当して、政治、経済、国際社会、現代社会の諸問題について講義します。すでに高校までに学修した内容も含まれますが、大学生になった今、あらためて各テーマについてよく理解するようにして下さい。この講義で説明される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えるようにしましょう。						
到達目標	学部の専門教育科目を学ぶための基本的な用語や考え方を理解できるようになること。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の進め方 第2回 現代の政治① 第3回 現代の政治② 第4回 現代の政治③ 第5回 現代の政治④ 第6回 現代の経済① 第7回 現代の経済② 第8回 現代の経済③ 第9回 現代の経済④ 第10回 おさらいの回 第11回 現代の国際社会① 第12回 現代の国際社会② 第13回 現代の国際社会③ 第14回 現代の国際社会④ 第15回 おさらいの回 専攻ガイダンス * 授業の順番は入れ替わることがあります						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特になし。教員から資料が配布されます。 参考文献 井堀利宏『教養としての政治学』（総合法令出版） 中島岳志『自分ごとの政治学』（NHK出版） 山崎広明 他『詳説 政治・経済』（山川出版社）						
事前・事後学習	普段から新聞やインターネットなどのメディアで、政治・経済・国際問題などの記事を読んでおくこと。（1日20分程度） 毎回の授業で課されたレポート課題に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	講義への参加意欲、講義で課された課題レポート（100%）						
授業内の課題・提出方法	各回の課題レポートは、学内の教育支援システムmoodleにて提出を予定。課題レポート提出の締め切りは、講義のあったその週の金曜日の16：00までとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	それぞれの回の担当教員からレポート内容に関して総合的なコメントをフィードバックします。						
アクティブラーニング	課題、小レポート、ミニッツ・ペーパー						
実務経験のある教員	担当教員の中に中小企業診断士として活動してきた教員がいます。						
担当者から一言	総合政策学部専門科目の学習の基本となる大切な必修科目です。欠席や遅刻したりせずに講義には毎回必ず出席し、しっかりと学んでください。						

授業科目名	政策過程論		科目コード	471203	授業コード	125803
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PCD2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 専攻必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 幅広い人間力を身につける					
授業のねらい	この授業では、法とまちづくりの関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。 ゲストスピーカーとして、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、どのような法的な規範が作られ、それに基づいてまちづくりが行われているか、お話をいただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています					
到達目標	法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。					
授業計画	第1講 ガイダンス～法的な規範とまちづくりについて～ 第2講 法令と条例 第3講 産業をめぐるまちの現状と課題 第4講 グループワーク～産業をめぐる課題解決のためのルール～ 第5講 四日市市の産業と法規制（清水） 第6講 観光をめぐるまちの現状と課題 第7講 グループワーク～観光をめぐる課題解決のためのルール～ 第8講 四日市市の観光・シティプロモーションと法（中村） 第9講 市民生活をめぐるまちの現状と課題 第10講 グループワーク～市民生活をめぐる課題解決のためのルール～ 第11講 四日市市の市民生活を改善するための法規（室田） 第12講 文化をめぐるまちの現状と課題 第13講 グループワーク～観光をめぐる課題解決のためのルール～ 第14講 文化行政と法（田端） 第15講 まとめ・振り返り 定期試験（レポート提出）  ※ ゲストスピーカーの都合などにより、日程や内容が変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じて資料を配布する場合があります）					
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと（60分）。					
成績評価方法	授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。成績は以下の配分により評価します。 ・グループワークなどへの取組姿勢：40% ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況：36% ・定期試験（レポート）：24%					
授業内の課題・提出方法	グループワークを行わない回は、授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題（小レポート）を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。					
アクティブラーニング	グループワークとその成果のプレゼンテーションをしてもらいます。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーの4人の方は、いずれも現役の市役所職員であり、市役所での実務に基づいた講義をしていただきます。					
担当者から一言	知識・情報をしっかり収集し、グループワークに積極的に参加するようにしてください。					

授業科目名	政策法務	科目コード	471208	授業コード	122804
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	PPT3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	<p>将来 警察官になりたいという話は、しばしば耳にします。では、警察官は、どのような仕事をしているのでしょうか。警察官として、日々どのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>この授業では、現職の警察官の方にもゲストスピーカーとして登壇いただくことで、警察の実際について学生諸君に知ってもらおうことを、そのねらいとしています。</p> <p>防犯・交通安全活動などの場面における警察と市民との協働や、刑法・刑事訴訟法などの背景となる知識についても、学んでもらいます。</p>				
到達目標	警察の業務が市民の安全に対して果たしている役割などについての基礎的な知識を身につける。				
授業計画	<p>第1講（9/23）ガイダンス（この授業の進め方）</p> <p>第2講（9/30）忘れ物や落とし物（拾得・遺失物）</p> <p>第3講（10/7）交通安全の意識啓発と施設整備</p> <p>第4講（10/14）夢を叶えた警察受験（受験の準備と現在の仕事）（卒業生 柳川さん）</p> <p>第5講（10/21）法規と警察</p> <p>第6講（10/28）刑法と刑事訴訟法</p> <p>第7講（11/4）犯罪に向き合う現場から（南警察署南川さん）</p> <p>第8講（11/11）ストーカー・DV及び児童虐待について</p> <p>第9講（11/18）少年非行・少年犯罪と補導・更生</p> <p>第10講（11/25）刑事としてOBとして（学生時代と現在の仕事）（卒業生 行廣さん）</p> <p>第11講（12/2）身近な警察 交番・駐在所</p> <p>第12講（12/9）犯罪防止に向けた対策の推進</p> <p>第13講（12/16）警察と協力した防犯活動（四日市北防犯協会 松岡さん）</p> <p>第14講（12/23）警察事務と被害者支援</p> <p>第15講（1/19）振り返りと課題</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、内容や順番が変更になる可能性があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	レジュメや資料などを配る予定です。				
事前・事後学習	<p>日頃から、テレビや新聞の事件・事故に関するニュースに目を通し、警察の役割について考えることを心掛けてください（毎日20分以上）。</p> <p>また、必ず復習をして、不明な点などはインターネット等で調べておいてください（40分）。</p>				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30%</li> <li>・ 定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%</li> </ul>				
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用のミニツツペーパーを配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニツツペーパーに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。				
アクティブラーニング	この授業では、原則として毎回、ミニツツペーパーを提出してもらいます。				
実務経験のある教員	本学の卒業生などのゲストスピーカーの方々は、いずれも警察などで実務に携わっている方々です。				
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。				

授業科目名	地域福祉論	科目コード	471211	授業コード	125308
担当教員	松本 彩月	科目ナンバリング	PCD2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。				
授業のねらい	この授業では地域福祉の基本的な考え方を学びます。私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考える授業です。				
到達目標	地域福祉の基本的考え方、地域福祉における主体と対象、地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要（地域福祉とは） 第2講 コミュニティとネットワーク 第3講 地域福祉の財源 第4講 地域福祉の主体や担い手 小レポート1 第5講 地域福祉をプロ野球から考える ゲストスピーカー 第6講 災害と地域福祉 第7講 ボランティアリズム 第8講 少子高齢化 第9講 子育て支援と地域福祉 第10回 社会的養護と子どもの貧困 小レポート2 第11回 地域福祉と子育て支援を考える ゲストスピーカー 第12回 当事者組織・セルフヘルプグループ 第13回 協同組合 第14回 社会的孤立と社会的排除 第15回 生活保護 小レポート-3 定期試験 ※ゲストスピーカーの都合により前後する可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 加山弾・熊田博樹・中島修・山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣（2020） 動画などを視聴することもあります。				
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）				
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。				
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション				
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）				
担当者から一言	自分ごととして地域福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。				

授業科目名	社会保障論	科目コード	471212	授業コード	121804
担当教員	松本 彩月	科目ナンバリング	PCD2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。				
到達目標	社会保障の役割と意義および課題、社会保障の基礎理論、歴史、財源を含む実施体制について、現代社会の動向も踏まえながら理解することができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要（社会保障とは） 第2講 社会保障の歴史と現代社会の変化 第3講 社会保障の法と財政 第4講 公的年金って？ 第5講 医療保険って？ 第6講 介護保険って？ 小レポート-1 第7講 働くことと社会保障 第8講 生活保護 第9講 社会福祉 第10講 災害と社会保障 第11講 居住福祉 小レポート-2 第12講 沖縄の貧困と社会保障 第13講 多国籍社会の社会保障 第14講 ジェンダーと社会保障 第15講 ひとり親と社会保障 小レポート-3 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 <参考文献> 春田吉備彦ほか『生きのびるための社会保障入門』堀之内出版（2023年）  動画を視聴することもあります。				
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）				
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。				
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション				
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。				
担当者から一言	社会保障制度を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。				

授業科目名	コミュニティ論		科目コード	471220	授業コード	123209
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	PCO2002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける					
授業のねらい	この講義では、地域における住民主体の活動として、自治会・町内会・市民活動団体・地域自治組織などを取り上げる。少子高齢化や人口減少などの社会構造の変化により、地域では様々な課題を抱えており、住民による活動も多様化してきている。講義では、住民による活動の歴史、実情、今後の方向性と課題について、各地の実例などを踏まえて整理する。また実習を通じて、住民による新たな活動、社会への生かし方について考える力を養成することを目的とする。					
到達目標	1. 住民による活動が果たすべき役割と個人としての関わり方について理解する。 2. 地域に合わせた活動の運営手法について考察する力をつける。 3. 住民による活動と関わる人々との交流により、より豊かな人間性を身につける。					
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、市民社会とは  第2回 コミュニティ、自治会、町内会の役割  第3回 非営利組織と経営、社会福祉協議会とは  第4回 市民社会の政治的側面  第5回 排外主義、社会的排除  第6回 事例研究 町内会の取り組み  第7回 受け入れ先団体とのディスカッション  第8回 いなべ市内地域活動団体とのフィールドワーク事前学習①  第9回 いなべ市内地域活動団体とのフィールドワーク事前学習②  第10回 フィールドワーク①  第11回 フィールドワーク②  第12回 フィールドワーク③  第13回 フィールドワーク④  第14回 発表準備  第15回 発表・まとめ</p> <p>※受け入れ先及び講義登録者数によって、シラバスが変更になる場合があります。受け入れ先団体の方も座学講義に参加する場合があります。  ※いなべ市内にてフィールドワークを行います但交通費は実費になります。</p>					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	事前学習では、地元のまちづくり活動を調べる（30分）。 住民活動に関連した図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。					
成績評価方法	参加意欲、コメントカード 10%（グループワーク含む） 発表・レポート①20%、レポート②10%、最終発表20% 最終レポート 40%					
授業内の課題・提出方法	事例研究として、町内会の住民活動に関する課題を発表・提出してもらう。 最終講義では本授業での学びを発表する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートまた報告会では、適宜コメントする。					
アクティブラーニング	ミニツツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク					
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）					
担当者から一言	自分ごととして地域について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。フィールドワークにはしっかり参加してください。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます					

授業科目名	NPO論		科目コード	471222	授業コード	125706	
担当教員	小林 慶太郎、鬼頭 浩文		科目ナンバリング	PCO2005			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>この授業では、市民が主体となって地域の活性化や魅力発信などの「まちづくり」に取り組むことの大切さを、いくつかの事例を中心に考えていきます。まちづくりに携わっている方々に教室に来ていただいて話を聞き、実際にスタッフとしてイベントに参加することを通じて、まちづくりを学びます。</p> <p>今年度は、市民ボランティアが中心になって開催されている「四日市JAZZフェスティバル」、三重からJリーグを目指して市民で盛り上げるスポーツクラブ「ヴィアティン三重」、四日市大学生の発案でスタートし定着した三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」を取り上げます。学生諸君が、市民主体のまちづくり活動の実際を、五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	市民主体のまちづくりの活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	<p>第1講（9/26）ガイダンス（鬼頭・小林）</p> <p>第2講（10/3）四日市JAZZフェスティバルと地域活性化（実行委員長）</p> <p>第3講（10/10）イベントとまちづくり（鬼頭・小林）</p> <p>第4講（10/16(木)5限）JAZZフェスに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会、鬼頭・小林）</p> <p>第5～7講（10/18-19）フィールドワーク（JAZZフェスへのスタッフとしての参加を3コマとしてカウント）</p> <p>第8講（10/24）スポーツクラブ経営（ヴィアティン三重社長）</p> <p>第9講（10/31）スポーツクラブとまちづくり（ヴィアティン三重スタッフ）</p> <p>第10講（11月中の週末 日程未定）フィールドワーク（ヴィアティン三重ホームゲームの場外イベントへのスタッフとしての参加を1コマとしてカウント）</p> <p>第11講（11/28）イベントとまちづくり（鬼頭・小林）</p> <p>第12講（12/5）北勢線サンタ電車とローカル鉄道（三岐鉄道職員）</p> <p>第13講（12/12）コミュニティバスと鉄道の連携（東員町担当者）</p> <p>第14講（12/19）サンタ電車運行準備と打ち合わせ（三岐鉄道職員、鬼頭・小林）</p> <p>第15講（12/20）フィールドワーク（北勢線サンタ電車へのスタッフとしての参加を1コマとしてカウント）</p> <p>※ 都合により授業計画が変更になる可能性があります。掲示等注意して見るようにしてください。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	JAZZフェスのパンフレット、サンタ電車の資料などの配布を予定しています						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちに資料やネットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	フィールドワークに取り組む姿勢・パフォーマンス40%、授業内で課す課題30%、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義の際には小レポートを、フィールドワークの際はその振り返りレポートを、それぞれ課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、Moodle等を通して学生にコメントを返していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、フィールドワークが重要な要素となっている。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、実際にまちづくりに関わっている方であり、フィールドワークの際にも指導いただく。なお、授業の担当者である鬼頭、小林も、それぞれ市民団体の代表として、まちづくりの実務に携わっている。						
担当者から一言	最も重要なフィールドワークに参加できない学生には、原則として単位は与えられませんので、履修登録の際には注意してください。						

授業科目名	マイノリティ政策		科目コード	471223	授業コード	122101	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PRP2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>ダイバーシティ（divercity）、日本語では、多様性と訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。</p> <p>年齢、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。</p> <p>この授業では、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が尊重されるダイバーシティ社会の担い手としての資質</p>						
到達目標	この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：この講義の進め方</p> <p>第2講 世界がもし100人の村だったら（グループワーク）</p> <p>第3講 民族と国民国家</p> <p>第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～</p> <p>第5講 日本における少数民族政策</p> <p>第6講 もう一つの民族問題 在住外国人</p> <p>第7講 日本における在住外国人政策</p> <p>第8講 地域における在住外国人政策</p> <p>第9講 セクシュアルマイノリティと「LGBT」</p> <p>第10講 トランスジェンダーと性同一性障害</p> <p>第11講 同性愛・両性愛と異性愛</p> <p>第12講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策</p> <p>第13講 性感染症をめぐる差別とタブー</p> <p>第14講 ダイバーシティ経営</p> <p>第15講 ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク）</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、順序が変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。</p> <p>【参考文献】</p> <p>小林慶太郎「LGBTと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円+税</p>						
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30%</li> <li>・ 定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%</li> </ul>						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
アクティブラーニング	授業時に、複数回グループワークを行うほか、課題として毎回ミニッツペーパーを記入してもらいます。						
実務経験のある教員	担当教員は、ダイバーシティ社会の実現に向けた三重県の委員会の委員等を数年にわたって務めています。また、ダイバーシティ社会実現に向けた活動をされている方を、ゲストスピーカーとしてお招きする予定です。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	金融論	科目コード	471405	授業コード	123211
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PIU2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	この「金融論」では、私たちの社会にとってはなくてはならない金融を学びます。私たちは誰しも、さまざまなかたちで金融の恩恵を受けて毎日、生活できています。その仕組みは非常に複雑で高度に進化していますが、この講義では初めて金融を学ぶかたを対象にして金融の基盤的な知識を修得することをねらいとします。全15回の授業のうち7回はゲストスピーカーを招きます。さまざまな金融の現場をよく知るゲストスピーカーから、生きた金融を講義で話してもらいます。				
到達目標	(1) 金融の基盤的な知識を修得する (2) 自分自身のライフプランやマネープランを考え、実践するための知識を修得する				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ライフプラン (二村) 第3講 金融と経済の基礎知識 (1) (二村) 第4講 金融と経済の基礎知識 (2) (二村) 第5講 ライフデザインと資金調達 (東海財務局津財務事務所) 第6講 金融トラブルと投資のリスク (東海財務局津財務事務所) 第7講 お金を借りる (二村) 第8講 お金を稼ぐ (二村) 第9講 日本経済の中の銀行の役割～中央銀行と民間金融機関～ (鷲山さん) 第10講 お金を増やす (マネックス証券) 第11講 生活設計とリスク管理 (生命保険協会) 第12講 生命保険の基礎知識 (生命保険協会) 第13講 政府系金融機関と地域金融機関 (脇田さん) 第14講 金融界の動向 (二村) 第15講 まとめ (二村)				
テキスト・教材 (参考文献)	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 家森信善「金融論 第3版」日本経済新聞出版 (2022年)、定価：2420円 (税込)				
事前・事後学習	事後学習として授業の内容を復習してください。授業の内容が自分にはどう関係するか考え、自分自身のファイナンシャル・プランニングに落とし込んでください。また週に1時間程度は図書館で日本経済新聞や経済系雑誌などで金融に関する記事 (最新の記事でなくても構いません) を探し、じっくりと読んでください。記事のなかにわからない用語があれば、複数の文献で調べてください (180分)。				
成績評価方法	(1) 各回のレポート：50% (2) 課題 (3回+1回)：50% (小課題10%×3回+期末課題20%×1回)				
授業内の課題・提出方法	課題のファイルをメールまたはMoodleで提出してもらいますが、外部講師の回ではそれ以外の提出方法とすることがあります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回のレポートについては、全体の講評を授業で行います。				
アクティブラーニング	自分自身の簡易なライフプランなどを作ってもらいます。				
実務経験のある教員	ファイナンシャル・プランニング技能士2級とAFPというという資格で長年、お金に関するコンサルティングを行ってきました。				
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。ゲストスピーカーの都合により、講義の内容および順序が変更になることがあります。				

授業科目名	国際経営論		科目コード	471406	授業コード	123509	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PIU2003			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この「管理会計論」では、主に企業の内部で自主的に行われる、会計の観点でのマネジメントについて学びます。管理会計は、部署や担当にかかわらず、企業のなかで働く人すべてに密接に関係するものです。管理会計の考え方やフレームワークなどを学び、卒業後に学んだことをビジネスの現場で使えることを目指します。						
到達目標	管理会計の考え方やフレームワークを正しく理解し、将来、自分が働く企業の現場などで、それらをそれぞれの現場に合わせたうえで使えることを到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 管理会計とは何か 第3講 原価計算（1） 第4講 原価計算（2） 第5講 損益分岐点分析（1） 第6講 損益分岐点分析（2） 第7講 バランススコアカード 第8講 中間テスト/ABCとABM 第9講 加重平均資本コスト（1） 第10講 加重平均資本コスト（2） 第11講 現在価値と将来価値 第12講 意思決定（1） 第13講 意思決定（2） 第14講 事業ポートフォリオマネジメント 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 加登豊、梶原武久「管理会計入門 第2版」日本経済新聞出版（2017年）、定価：1100円（税込） 浅田孝幸ほか「管理会計・入門 戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング 第4版」有斐閣（2017年）、定価：2530円（税込）						
事前・事後学習	「管理会計論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」「経営分析論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。日本経済新聞やビジネス系雑誌などで企業に関する記事を読むと、会計と経営管理を関連づけて考える材料が多く見つかるはずです。週に1時間程度は図書館などで企業やビジネスに関する新聞・雑誌の記事に触れてください（180分）。						
成績評価方法	(1) 中間テスト・平常点（受講態度など）：30% (2) 課題（2回）：30%（15%×2） (3) 定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	課題のファイルをMoodleまたはメールで提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間テストについては全体の講評を授業で行います。課題については希望者に個別のフィードバックをします。						
アクティブラーニング	授業で取り上げた内容に関する新聞・雑誌記事を探し、その要約や解説をしてもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	簿記入門	科目コード	471409	授業コード	125606
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PBM2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	簿記は株式会社などの企業、小規模な店舗、官公庁といった各種組織・機関で行われている幅広い事業活動をお金の面で記録する技術であり、また財務諸表（決算書）を作る基礎でもあります。この「簿記入門」の授業では、簿記や財務諸表の基礎、勘定科目、仕訳などを学びます。皆さんが就職後、簿記の対象となる取引にどう関わるかは人それぞれでしょうが、まったく関わらない人はいないはずで、就職後に自分が働くことをイメージしながら、簿記という技術体系の基礎を理解することがこの授業のねらいです。				
到達目標	<p>(1) 日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」と「諸取引の処理」に関する問題を解ける.....日商簿記検定3級は他の資格と比べて学びやすく、学習した時間数が獲得できる知識量、そして合格につながりやすい資格だと言えます。日商簿記検定3級試験のほぼ半分の問題を解けるだけの知識修得を目指しましょう。</p> <p>(2) 「学び方」を学ぶ.....幅広く応用が効く、「学び方」を学びましょう。「学び方」を学んでいるかどうかは採用担当者が近年、特に重視するポイントです。就職後の学び方を養うために「学び方」を学ぶことも、この「簿記入門」の到達目標です。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 簿記の意義（テキストのテーマ01）、財務諸表と簿記の5要素（同02）</p> <p>第3講 日常の手続き（同03）</p> <p>第4講 商品売買1（同04）</p> <p>第5講 商品売買2（同05）</p> <p>第6講 現金・預金（同06）、小口現金（同07）</p> <p>第7講 クレジット売掛金（同08）、手形取引（同09）</p> <p>第8講 中間試験、電子記録債権・債務（同10）</p> <p>第9講 その他の取引1（同11）</p> <p>第10講 その他の取引2（同12）、減価償却（同20の一部）</p> <p>第11講 その他の取引3（同13）</p> <p>第12講 さまざまな帳簿の関係（同14）</p> <p>第13講 試算表（同15）</p> <p>第14講 証ひょう（同31）、伝票（同32）</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>定期試験</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：2200円（税込）</p> <p>参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：1650円（税込）</p> <p>資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込）</p> <p>日建学院「ネット試験対応 日商簿記3級 過去問+予想問題解説集 2024-2025年版」日建学院（2024年）、定価：1320円（税込）</p>				
事前・事後学習	<p>簿記は知識を一つひとつ積み上げていくことで理解できる科目です。欠席すると次週以降の理解がかなり難しくなります。欠席しないことを第一に、欠席したらその日の内容をテキストで必ず自習してください。</p> <p>継続的な繰り返し学習が効果的です。「近道は遠道」「走れば転ぶ」「急がば回れ」と心得て、コツコツ学びましょう。</p> <p>事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと（90分）。</p> <p>事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>(1) 中間試験（第8講で実施予定）：30%</p> <p>(2) 課題：30%</p> <p>(3) 定期試験：40%</p> <p>「簿記入門」は日商簿記初級に合格できるレベル、もしくは日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」「諸取引の処理」に関する問題で合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、それらの検定試験に準じます。</p>				
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleまたはメールで提出してもらいます（計3回）。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。優れた課題については授業で紹介することがあります。				
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。				
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。				
担当者から一言	<p>授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。</p> <p>毎回、電卓を持参してください。</p> <p>簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。</p> <p>テキストの発行がシラバス登録の後であるため、授業計画が一部変更になる可能性があります。</p>				

授業科目名	会計学総論		科目コード	471410	授業コード	123807	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PBM2002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この「会計学概論」では、会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を学びます。会計学が対象とする領域は幅広く、財務諸表論、管理会計論、経営分析論などへと細分化されます。それらのどの領域、さらに経営学、経済学、金融論などの一部にも通底する《過去を未来に知恵として伝えようとする意志》を感じ取りながら、会計学の全体像を理解していくことをこの授業のねらいとします。						
到達目標	<p>(1) 会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を身につける……2年次・3年次に配当されている「財務諸表論」「管理会計論」「経営分析論」で学びを深められるよう、この授業で全体像をつかんでおきましょう。</p> <p>(2) 就職後の仕事ではもちろん、1人ひとりの生活者として生きていくさいにも会計的な視点で考えられるようになる……会計的な視点で考えることは仕事だけでなく個人の生活にも大きな恩恵をもたらしてくれます。</p>						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計の目的 第3講 会計基準と会計制度 第4講 企業経営と会計 第5講 貸借対照表1 第6講 貸借対照表2 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 会計原則 第10講 キャッシュ・フロー計算書 第11講 経営分析 第12講 家計（個人）にとっての会計 第13講 ファイナンスと会計 第14講 会計と監査 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 桜井久勝「会計学入門〈第5版〉」日本経済新聞出版（2018年）、定価：946円（税込） 川本淳ほか「はじめて出会う会計学 第3版」有斐閣（2022年）、定価：2310円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として新聞（特に日本経済新聞）や雑誌などで、企業に関する記事を読むようにしてください。最初はわからない用語ばかりですが、そうした用語をメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また授業で学んだことを使って、実存する企業の財務諸表などを使って小レポートを作成してください（90分）。						
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) 小レポート：20% (3) 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第9講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。小レポートはMoodleまたはメールで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと小レポートについては全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、財務面のレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	財務諸表論		科目コード	471411	授業コード	125708	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PBM2004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	ビジネス界の共通言語とも言われる会計、その中心となる財務諸表（決算書）について学ぶのが、この「財務諸表論」です。「財務諸表論」のねらいは財務諸表を《読む》ためや《使う》ために、財務諸表が作られるさいのルール、各財務諸表の構成や関係を学ぶことです。授業を通して各財務諸表が何を示しているのかを理解しましょう。同時に、何を示して（示せて）いないのかを考えると、財務諸表のおもしろさを見つけられるかもしれません。						
到達目標	<p>(1) 財務諸表を読むための基礎的な知識を身につける……「難しそう」という印象を持たれやすい財務諸表ですが、ポイントを押さえれば読むのは難しくありません。</p> <p>(2) さまざまな立場のさまざまな目的で財務諸表を使うための実践的なスキルを修得する……たとえば経営者が株主を増やすため、1人の従業員が未知の企業と取引を検討するため、また個人が株式投資をするためなど、財務諸表を使えるようになりましょう。</p> <p>(3) 公開情報から有用なものを取捨選択し、効果的に報告する能力を獲得する……財務情報は容易に手に入ります。それを価値あるデータとしていかす術を身につけてください。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 財務諸表を作るねらい</p> <p>第3講 財務諸表の構成</p> <p>第4講 貸借対照表1</p> <p>第5講 貸借対照表2</p> <p>第6講 貸借対照表3</p> <p>第7講 損益計算書1</p> <p>第8講 損益計算書2</p> <p>第9講 損益計算書3</p> <p>第10講 キャッシュ・フロー計算書1</p> <p>第11講 キャッシュ・フロー計算書2</p> <p>第12講 株式会社の設立・資金調達～仕入・生産活動</p> <p>第13講 株式会社の営業・販売活動～設備投資・研究開発</p> <p>第14講 会計と経営</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキストは指定しません。資料は適宜配布します。</p> <p>参考文献：          日本経済新聞社「財務諸表の見方 第14版」日本経済新聞出版（2023年）、定価：1100円（税込）          金子智朗「教養としての「会計」入門」日本実業出版社（2023年）、定価：1980円（税込）</p>						
事前・事後学習	<p>事前学習として日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。</p> <p>事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください（90分）。</p>						
成績評価方法	<p>(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30%</p> <p>(2) レポート：30%</p> <p>(3) 定期試験：40%</p>						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第7講・第10講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。レポートはメールまたはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストとレポートについては全体の講評を授業で行います。また優れたレポートは授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務面などで比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	ものづくり経営		科目コード	471416	授業コード	125404	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PBM2006			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この授業では「簿記入門」に続き、日商簿記検定3級の内容、具体的には「決算」と「株式会社会計」を学びます。3級試験に合格できる簿記知識の修得がねらいです。また企業の事業活動や社会・組織のなかで行われている、さまざまな取引やお金に関する管理手法を学ぶこともねらいです。600年以上も使われ続け、ゲーテも高く評価※した簿記（現在の複式簿記）の洗練と優美さを感じ取ってください。 ※ゲーテ（ドイツの詩人、劇作家。1749-1832）の『ウィウヘルム・マイスターの修業時代』という小説には複式簿記を「人類の最も見事な発明の一つだ」と評価する一節があります。						
到達目標	(1) 日商簿記検定3級の「決算」と「株式会社会計」に関する問題を解ける……「簿記の基本原則」と「諸取引（期中取引）の処理」を学んだ「簿記入門」とあわせて、この「商業簿記」を履修すれば、3級試験の出題範囲をすべて学べることになります。履修後には3級試験の受験を強くおすすめします。 (2) 簿記・会計の考え方を理解する……簿記・会計には、企業などの事業活動をお金の面からとらえるにあたって私たちに馴染みのある一般的な考え方は異なる、独特の考え方があります。そうした考え方を理解することは、企業経営、経済や金融について理解する一助となるはずで						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 決算（テキストのテーマ16） 第3講 決算整理1 現金過不足（同17） 第4講 決算整理2 売上原価（同18） 第5講 決算整理3 貸倒れ（同19） 第6講 決算整理4 減価償却（同20） 第7講 決算整理5 貯蔵品（同21）、決算整理6 当座借越（同22） 第8講 決算整理7 経過勘定項目（同23） 第9講 中間試験 第10講 決算整理後残高試算表（同24） 第11講 精算表（同25） 第12講 帳簿の締め切り（英米式決算）（同26）、損益計算書と貸借対照表（同27） 第13講 株式の発行（同28）、剰余金の配当と処分（前半）（同29） 第14講 剰余金の配当と処分（後半）（同29）、税金（同30） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト： TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）（2024年度後学期の「簿記入門」で使用したテキスト） 入手できなければ、同著者、同出版社、同価格の「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）でも可 参考文献（問題集）： TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円）またはTAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：1650円）						
事前・事後学習	「商業簿記」の履修には「簿記入門」を先行して履修していること、もしくは日商簿記初級の学習経験を持つことが望ましいです。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと。授業では要点の確認、疑問点の解消だけに集中できるようにテキストを読み込んでおくことが望ましいです（90分以上）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。 細切れの時間をうまく使って、簿記を毎日学習する習慣をつけましょう。						
成績評価方法	(1) 中間試験（第9講で実施予定）：30% (2) 課題：30% (3) 定期試験：40% 「商業簿記」は、「簿記入門」の学習内容とあわせて日商簿記検定3級に合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、日商簿記検定3級に準じます。						
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。また優れた課題については授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。						

実務経験のある教員による授業科目(総合政策学科2023年度以降入学生)

区分	2023年度以降入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
全 学 共 通 科 目	「人間たれ」I	「人間たれ」	②	○								兼	鬼頭 浩文 他	1	
	「人間たれ」II	人権論	②		○								小林 慶太郎 他	2	
	四日市学	四日市学	②			○							岡 良浩 他	3	
	社会福祉概論	社会福祉概論	2		○								松本 彩月	26	
	地学概論	地学概論	2	○								非	森 康則	35	オンデマンド授業
	キャリア基礎b	キャリア基礎 I	②				○						三田 泰雅 他	41	
	キャリア基礎c	キャリア基礎 II	②					○					小林 慶太郎	42	
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2				○					非	石田 京子	43	
	ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーション	2					○				非	石田 京子	44	
	インターンシップa	インターンシップ	2			▲							岡 良浩	45	
	インターンシップb		2					▲				兼	鬼頭 浩文 永井 博	46	
	ITリテラシー	インターネット論	2	○								兼	柳澤 翔士	58	
	Webプログラミング2		2			○						兼	柳澤 翔士	60	
	社会調査入門	社会調査入門	2	○									三田 泰雅	76	
	社会調査の技法	社会調査の技法	2		○								三田 泰雅	77	
	フィールドワーク論	フィールドワーク論	2			○							倉田 英司	80	
	社会調査実習1	社会調査実習1	2					○					倉田 英司	82	
	社会調査実習2	社会調査実習2	2						○				倉田 英司	83	
	全学共通特別講義a	地域連携特別講義a	2		▲								倉田 英司	94	
専 門 教 育 科 目	警察行政と安全	政策法務	2				○						小林 慶太郎	165	
	法とまちづくり	政策過程論	2						○				小林 慶太郎	167	
	防災とまちづくり	地域防災	2	○								兼	鬼頭 浩文	168	オンデマンド授業
	地域福祉論	地域福祉論	2			○							松本 彩月	169	
	社会保障論	社会保障論	2				○						松本 彩月	170	
	ダイバーシティ社会論	マイノリティ政策	2	○									小林 慶太郎	171	
	市民社会論	コミュニティ論	2			○							松本 彩月	172	
	市民とまちづくり	NPO論	2		○								小林 慶太郎	173	
	簿記入門	簿記入門	2		○								二村 建也	203	
	経営ケーススタディ	おもてなし特別講義a	2						○				岡 良浩	208	
	マーケティング実践論	マーケティング演習	2					○					川崎 綾子	215	
	会計学総論	会計学総論	2		○								二村 建也	216	
	金融論	金融論	2			○							二村 建也	217	
	財務諸表論	財務諸表論	2				○						二村 建也	218	
	管理会計論	国際経営論	2						○				二村 建也	219	
	経営分析論	ビジネスマネジメント	2					○					二村 建也	220	
	商業簿記	ものづくり経営	2			○							二村 建也	221	

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ		科目コード	181001	授業コード	115101	
担当教員	鬼頭 浩文、足立 明信、青木 陽子、樋口 晶子、黒田 淳哉、大八木 麻希、柳瀬 元志		科目ナンバリング	GEFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。						
授業計画	<p>第1講 4/11 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」と能登半島地震と学友会と</p> <p>第2講 4/18 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～</p> <p>第3講 4/25 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～</p> <p>第4講 5/9 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～</p> <p>第5講 5/16 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所運営を経験して（齋藤）</p> <p>第6講 5/23 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が被災して（鈴木&amp;北村）</p> <p>第7講 5/30 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難所をどう見たか（雁部）</p> <p>第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館</p> <p>第10講 6/20 教員が語る「人間たれ」①（足立）</p> <p>第11講 6/27 教員が語る「人間たれ」②（大八木）</p> <p>第12講 7/4 教員が語る「人間たれ」③（黒田）</p> <p>第13講 7/11 教員が語る「人間たれ」④（樋口）</p> <p>第14講 7/18 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬）</p> <p>第15講 7/25 教員が語る「人間たれ」⑥（青木）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す						
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成						
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ		科目コード	181002	授業コード	115501
担当教員	小林 慶太郎、浅井 雅、二村 建也、倉田 英司、フェリペ フェハリー、永井 博		科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。					
授業計画	<p>第1講（9/26）ガイダンス「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林）</p> <p>第2講（10/3）情報リテラシーと犯罪対策（三重県警サイバー犯罪対策課）</p> <p>第3講（10/10）日本の財政状況と税金（財務省 津財務事務所）</p> <p>第4講（10/17）お金をうまく管理しよう①（二村）</p> <p>第5講（10/24）お金をうまく管理しよう②（二村）</p> <p>第6講（10/31）お金をうまく管理しよう③（二村）</p> <p>第7講（11/7）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員））</p> <p>第8講（11/14）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ホック・モビュルさん）</p> <p>第9講（11/21）教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（永井）</p> <p>第10講（11/28）世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林）</p> <p>第11講（12/5）教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（倉田）</p> <p>第12講（12/12）外国人研修生の日本での生活紹介および子供の森計画について（オイスカ）</p> <p>第13講（12/19）教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（浅井）</p> <p>第14講（1/9）教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（フェハリー）</p> <p>第15講（1/16）教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（小林）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序・内容は変更になる場合があります。</p>					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。					
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。					
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	四日市学		科目コード	181003	授業コード	115201	
担当教員	岡 良浩、青木 陽子、倉田 英司、鬼頭 浩文、小林 慶太郎、永井 博		科目ナンバリング	GEFC1007			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境など多面的に四日市について理解する機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただきたいと思います。						
到達目標	講義は13回にわたる様々なテーマの座学とフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること						
授業計画	第1講(4/11) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡) 第2講(4/18) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]; 四日市公害と環境未来館) 第3講(4/25) 「四日市の産業」(岡[司会]; 四日市市商工農水部) 第4講(5/9) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義]) 第5講(5/16) 「四日市の歴史」(永井[司会]; 四日市市博物館学芸員) 第6講(5/23) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]; 四日市市多文化共生推進室) 第7講(5/30) 「四日市の食」(小林[司会・講義]) 第8講(6/6) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]; 四日市市都市整備部) 第9講(6/13) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]; 四日市市文化課) 第10講(6/20) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]; 四日市市シティプロモーション部) 第11講(6/27) 「四日市市の危機管理と防災」(鬼頭[司会]; 四日市市危機管理統括部) 第12講(7/4) 「四日市市の子育て支援」(松本[司会]; 四日市市子ども未来部) 第13講(7/11) 「四日市市の行財政」(小林[司会]; 四日市市財政経営部)  フィールドワーク(第14・15講分) 四日市市博物館等でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。						
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。(Moodleでの配布を予定)						
事前・事後学習	事前学習: 講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習(90分程度) 事後学習: 講義中の課題を行う(90分程度)						
成績評価方法	以下の3つで総合評価します。 講義中の課題(リアクションペーパー)各200字程度(60%) フィールドワークに関するレポート(20%) 学期末試験(20%)						
授業内の課題・提出方法	毎回、課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。						
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。						
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。						

授業科目名	社会福祉概論		科目コード	181204	授業コード	111605
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。					
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。					
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史的変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 動画を視聴することもあります。					
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）					
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。					
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション					
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。					
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。					

授業科目名	地学概論	科目コード	181402	授業コード	111101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある事例を交えながら学んでいきます。				
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）期末課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNI PAを使って、アナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。				
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を薦めます。講義を進めていくうえで必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				

授業科目名	キャリア基礎b		科目コード	181502	授業コード	111701
担当教員	三田 泰雅、二村 建也、小西 琴絵、松本 彩月、岡 良浩、鶴田 利恵		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる					
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①キャリアとは 3 労働②キャリアを考えるには 4 労働③現代社会の職業 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③世界の中の日本の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて					
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。					
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）					
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。					
アクティブラーニング	小レポート					
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。					
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。					

授業科目名	キャリア基礎c	科目コード	181503	授業コード	113301
担当教員	小林 慶太郎、小西 琴絵	科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	この科目では、前の学期に引き続き、卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えていきます。自分の「就きたい職業」や「働きたい業界」をどのように見つけ、そして、就職活動をどのように進めていったら良いのか、実践も交えながら探っていきます。現在の日本の就職事情等をしっかり把握し、自ら主体的に行動できるようになることをねらいとしていますので、進学等を予定しているなどで卒業後すぐに就職をしないつもりの方の学生にとっても、有益な授業になるはずです。				
到達目標	以下の3つの到達目標があります 1. なぜ、どのような仕事に就きたいのかを、自らの言葉で説明できるようになる（志望理由） 2. 自らがどんな人間であるのかを長所・短所も含めて客観視して説明できるようになる（自己PR） 3. 自らの大学生活を振り返り、どのようなことに取り組み、どのような力を育んできたのかを説明できるようになる（ガクチカ）				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 就職活動のすすめ方 第3講 インターンシップ・オープンカンパニーのすすめ 第4講 自己分析 第5講 エントリーシート・履歴書対策 第6講 業界・企業研究 第7講 面接対策 第8講 グループディスカッション対策 第9講 筆記試験対策 第10講 就職活動マナー 第11講 業界・企業セミナー① 第12講 業界・企業セミナー② 第13講 業界・企業セミナー③ 第14講 働く者の権利 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	適宜、資料などを配布する予定です。				
事前・事後学習	新聞やニュース、特に自らの志望する業界などに関するものに、しっかり目を通すこと（1日20分以上）。しっかり復習をし、夏のオープンカンパニーや就職活動の開始に備えること。				
成績評価方法	日頃の課題等への取組状況：60% 期末試験：40%				
授業内の課題・提出方法	ゲストスピーカーによって異なるため、授業中に指示する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降の授業中にコメントする。				
アクティブラーニング	実際に書類を書く練習をしたり、グループワークを行ったりする予定である。				
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、企業等において、就職活動等に関する情報を多く収集し、指導実績も豊富な方々です。				
担当者から一言	大学生活も振り返り点を過ぎました。自身の将来、卒業後の進路を見据えて、真剣に取り組んでください。				

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	181601	授業コード	115601	
担当教員	石田 京子		科目ナンバリング	GECC1004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力</p>						
授業のねらい	<p>ビジネスコミュニケーションの初級者として、様々な理論や技術の基礎を学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人には、この社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけビジネスマナーやビジネススキルを中心に、実社会で必要な相手目線（顧客）を意識した自己表現力を磨き、身</p>						
到達目標	<p>1. 社会人としてのマナーの基本を学び習得することで、社会生活の様々なシーンで適切な基本的実践行動ができるようになることです。 2. 人間関係の土台であるコミュニケーションスキルを基本的に学び、そのエビデンスである心理学を理解し考察することで、相手目線に立ち、その場と関わりに応じた適切な自己表現ができるようになることです。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 挨拶の基本 第2講 マナーとコミュニケーション概論 第3講 一般的なマナー①表情・声・身体表現 第4講 一般的なマナー②敬語 第5講 ビジネスマナー①職場のルール・報連相・電話応対 第6講 ビジネスマナー②受付・案内・席次・名刺交換 第7講 ビジネスマナー③ビジネス文書・ビジネスメール 第8講 第一印象力 第9講 話す力 第10講 聴く力 第11講 考える力（主体的論理的思考） 第12講 クレーム対応・ハラスメント基礎・アンガーマネジメント基礎 第13講 プレゼンテーション原稿づくり 第14講 プレゼンテーション個人発表 第15講 総まとめ 定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	<p>授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。</p>						
成績評価方法	定期テスト50%、小テスト25%、出席時の積極的態度と発言25%。						
授業内の課題・提出方法	<p>授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。</p>						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、クレーブディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修に携わる。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。周りの人々と心から繋がり合い、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築しましょう。意欲的で実行力のある学生の受講を望みます。						



授業科目名	ビジネスコミュニケーション	科目コード	181602	授業コード	112402
担当教員	石田 京子	科目ナンバリング	GECC1005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義は笑顔とホスピタリティ溢れる接客技術や、説明力・説得力・プレゼンテーション力などを含む会話術を中心に行います。こ				
到達目標	①ビジネス社会において、人間関係の土台であるコミュニケーションスキルの理論と実践を応用的に学び習得することで、様々なビジネスシーンで相手とその関係性において適切な自己表現行動ができるようになることです。 ②接客技術や会話術を、エビデンスと実践練習で学び習得することで、主体的に考え、判断し、有言実行し、地域社会に貢献できるスキルをもつようになることです。				
授業計画	第1講 ガイダンス 仕事の意義・挨拶の基本 第2講 コミュニケーション概論・ホスピタリティ理論 第3講 パフォーマンス心理学 場と関わりの自己表現 第4講 第一印象力・電話応対 第5講 接客力・名刺交換 第6講 ビジネス文書・ビジネスメール 第7講 コンプライアンス・リスク管理・ハラスメント 第8講 心理学 セルフコーチング 第9講 心理学 交流分析 第10講 心理学 アサーティブコミュニケーション 第11講 合意形成（コンセンサス） 第12講 論理的思考力・説明力・説得力 第13講 プレゼンテーション1 第14講 プレゼンテーション2 第15講 総まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。				
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。				
成績評価方法	定期テスト50%、小テスト25%、出席時の積極的態度と発言25%。				
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。				
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、クープディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。				
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修。就活の面接指導。				
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。心から繋がりがあい、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築するために、自身のスキルや人間力を磨きましょう。周りと共に生き、なりたい自分になるために切磋琢磨する学生を望みます。				



授業科目名	インターンシップ a	科目コード	181603	授業コード	116101
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GECC1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	大学の長期休暇などで、5社以上のオープンカンパニー（1社3時間以上）に参加する。これにより、働くことについて深く理解することが本講義のねらいである。安易な受講は避けてほしいが、社会人になる準備の科目ととらえ、積極的に履修してほしい。				
到達目標	仕事・業界について知り、働くことへの理解を深める。				
授業計画	<p>★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること</p> <p>★詳細は、履修要綱に記載</p> <p>5月（10月）説明会/申込</p> <p>6月（11月）事前学習</p> <p>7月（12月）事前研修</p> <p>8月～9月（2月～3月）オープン・カンパニー</p> <p>10月（3月）事後学習</p> <p>11月（3月）単位認定</p> <p>*（ ）は春季スケジュール</p>				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	オープンカンパニーは、会社の説明や実際に働く人たちの日常を知る機会であるが、ときにはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	気軽にチャレンジしてほしいが、安易な考えで受講することは、しないでほしい。なお、オープンカンパニーは平日昼に実施されることが多い。当然、アルバイトやクラブ活動でドタキャンすることは認められない。				

授業科目名	インターンシップ b	科目コード	181604	授業コード	116502
担当教員	鬼頭 浩文、永井 博	科目ナンバリング	GECC1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことにより、その仕事・業界に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることがねらいである。就労体験では、大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験し、正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けしてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上での定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること				
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。				
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 5月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布 6月：面接と研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 8～9月：インターンシップ 10月：事後研修と面談・・・レポート提出 11月：単位認定 *春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。				

授業科目名	ITリテラシー		科目コード	181801	授業コード	113402
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GECI1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。					
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。					
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税					
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有					
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。					

授業科目名	Webプログラミング2		科目コード	181803	授業コード	114301	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GECI1004			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	Webの仕組みとプログラミングを学びます。Webプログラミング1で学んだことをもとに、より実践的な内容を学ぶ事でWebデザイン技能検定3級レベルの技術・知識を学ぶ。						
到達目標	自分でHTMLを書くことができる技術・知識の習得と、Webに関わる総合的な知識を習得することでWebデザイン技能検定3級レベルの能力を得ること。						
授業計画	<p>全て実習を含みます</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基礎知識</li> <li>2. Webサイトの概要</li> <li>3. HTML①</li> <li>4. HTML②</li> <li>5. HTML③</li> <li>6. CSS①</li> <li>7. CSS②</li> <li>8. CSS③</li> <li>9. サイトの設計と制作①</li> <li>10. サイトの設計と制作②</li> <li>11. サイトの設計と制作③</li> <li>12. サイトの設計と制作④</li> <li>13. 模擬試験①</li> <li>14. 模擬試験②</li> <li>15. 模擬試験③・まとめ</li> </ol> <p>定期試験</p> <p>※学習状況により内容はその都度変更する場合があります※</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>[テキスト] 特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 「改訂版 ウェブデザイン技能検定 3級 過去問題集 (よくわかるマスター)」 富士通ラーニングメディア(FOM出版)</p> <p>※テキストは変更の可能性があります。変更時は掲示をしますので掲示板をチェックしてください※</p> <p>[参考図書] 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 &amp; CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社</p>						
事前・事後学習	<p>講義前にテキスト・配布資料を読んだり整理することで理解を深める事(60分)</p> <p>講義後に授業の内容を再確認し、理解を深めること(120分)</p>						
成績評価方法	<p>レポート・授業課題等の受講態度(50%)</p> <p>定期試験(50%)</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーフォルダを使用する場合と、Moodleやメールを使う場合があります。(その都度指定)</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>当日中、あるいは翌週に行う。</p>						
アクティブラーニング	<p>PC実習</p>						
実務経験のある教員	<p>Webサイト制作業務経験あり</p>						
担当者から一言	<p>Webプログラミング1で得た知識が重要になります。もう一度Webに関わる基礎から復習を行い、より実践的な知識・技術を身につけましょう。出席状況が悪い場合は減点を行います。課題提出がされない場合大きく減点するので課題は必ず出しましょう。</p>						

授業科目名	社会調査入門		科目コード	182001	授業コード	113206	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECR1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1ガイダンス 2社会調査の目的と意義 3社会調査の歴史 4社会調査の種類と方法 5質的調査1：インタビューの実例 6質的調査2：参与観察の実例 7質的調査3：ドキュメント分析の実例 8量的調査1：質問紙調査の実例 9量的調査2：二次分析の実例 10量的調査3：電話調査とウェブ調査 11サンプリングの歴史 12公的統計の意義と活用 13社会調査の展開1：社会地図の方法 14社会調査の展開2：アクションリサーチ 15調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法		科目コード	182002	授業コード	113604	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECR1002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。						

授業科目名	フィールドワーク論	科目コード	182005	授業コード	113404
担当教員	倉田 英司	科目ナンバリング	GECR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。				
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. フィールドワークとは</li> <li>3. フィールドワークによる調査事例</li> <li>4. 目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区</li> <li>5. 地区内の現状把握手法（データ分析）</li> <li>6. 地区内の課題把握手法（データ分析）</li> <li>7. 地区内の現状把握手法（聞き取り調査）</li> <li>8. 地区内の課題把握手法（聞き取り調査）</li> <li>9. 地区内の現状把握手法（参与観察）</li> <li>10. 地区内の課題把握手法（参与観察）</li> <li>11. 地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方</li> <li>12. 調査結果の考察手法</li> <li>13. 調査結果を踏まえた提言手法</li> <li>14. 最終レポートのガイダンス</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。				
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。				
成績評価方法	<p>以下のような配分で評価する。</p> <p>①講義への参加度（発言等）：30%</p> <p>②各回のレポート：30%</p> <p>③最終レポート：40%</p> <p>なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。</p>				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。				
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク				
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、フィールドワーク調査を行います。				
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。				

授業科目名	社会調査実習 1		科目コード	182007	授業コード	112405	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GECR1007			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。特に、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。						
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査を通じて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 問題の整理</li> <li>3. 対象について学ぶ</li> <li>4. 問いを立てる</li> <li>5. 先行研究をさがす</li> <li>6. 先行研究の検討(1)</li> <li>7. 先行研究の検討(2)</li> <li>8. 仮説の形成</li> <li>9. 調査項目の洗い出し</li> <li>10. 調査表作成の基礎</li> <li>11. 調査票の作成(1)</li> <li>12. 調査票の作成(2)</li> <li>13. 調査票の完成</li> <li>14. 調査の実施</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	報告準備をする（180分以上）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%						
授業内の課題・提出方法	不定期に中間報告の機会を設けます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。						
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習2」の単位も取得する必要があります。						

授業科目名	社会調査実習 2		科目コード	182008	授業コード	112804	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GECR1008			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。(5)レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。						
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. データの整理</li> <li>3. データ入力(1)</li> <li>4. データ入力(2)</li> <li>5. データ分析の基本</li> <li>6. データの分析(1)</li> <li>7. データの分析(2)</li> <li>8. 分析結果の報告(1)</li> <li>9. 分析結果の報告(2)</li> <li>10. 分析結果の報告(3)</li> <li>11. レポートのまとめ方</li> <li>12. 報告原稿の発表(1)</li> <li>13. 報告原稿の発表(2)</li> <li>14. 報告原稿の発表(3)</li> <li>15. 報告書の作成</li> </ol>						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%						
授業内の課題・提出方法	不定期に報告機会を設けます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。						
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習1」の単位も取得する必要があります。						

授業科目名	全学共通特別講義 a		科目コード	182201	授業コード	116504	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GESG1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方 14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし 15:20-17:00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13:00-15:30 展示見学・講義 15:40-17:00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10:00-12:00 施設見学・体験 12:00-13:00 昼食・移動 13:00-14:00 農を活かした観光開発 14:10-16:10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10:00-16:10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13:00-17:00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13:00-16:00 成果発表会 16:00-17:00 講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料等を配布する場合があります。						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	警察行政と安全		科目コード	481403	授業コード	112805	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PPL5002			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	<p>将来 警察官になりたいという話は、しばしば耳にします。では、警察官は、どのような仕事をしているのでしょうか。警察官として、日々どのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>この授業では、現職の警察官の方にもゲストスピーカーとして登壇いただくことで、警察の実際について学生諸君に知ってもらおうことを、そのねらいとしています。</p> <p>防犯・交通安全活動などの場面における警察と市民との協働や、刑法・刑事訴訟法などの背景となる知識についても、学んでもらいます。</p>						
到達目標	警察の業務が市民の安全に対して果たしている役割などについての基礎的な知識を身につける。						
授業計画	<p>第1講（9/23）ガイダンス（この授業の進め方）</p> <p>第2講（9/30）忘れ物や落とし物（拾得・遺失物）</p> <p>第3講（10/7）交通安全の意識啓発と施設整備</p> <p>第4講（10/14）夢を叶えた警察受験（受験の準備と現在の仕事）（卒業生 柳川さん）</p> <p>第5講（10/21）法規と警察</p> <p>第6講（10/28）刑法と刑事訴訟法</p> <p>第7講（11/4）犯罪に向き合う現場から（南警察署南川さん）</p> <p>第8講（11/11）ストーカー・DV及び児童虐待について</p> <p>第9講（11/18）少年非行・少年犯罪と補導・更生</p> <p>第10講（11/25）刑事としてOBとして（学生時代と現在の仕事）（卒業生 行廣さん）</p> <p>第11講（12/2）身近な警察 交番・駐在所</p> <p>第12講（12/9）犯罪防止に向けた対策の推進</p> <p>第13講（12/16）警察と協力した防犯活動（四日市北防犯協会 松岡さん）</p> <p>第14講（12/23）警察事務と被害者支援</p> <p>第15講（1/19）振り返りと課題</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、内容や順番が変更になる可能性があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	レジュメや資料などを配る予定です。						
事前・事後学習	<p>日頃から、テレビや新聞の事件・事故に関するニュースに目を通し、警察の役割について考えることを心掛けてください（毎日20分以上）。</p> <p>また、必ず復習をして、不明な点などはインターネット等で調べておいてください（40分）。</p>						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30%</li> <li>・ 定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%</li> </ul>						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用のミニツツペーパーを配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニツツペーパーに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、原則として毎回、ミニツツペーパーを提出してもらいます。						
実務経験のある教員	本学の卒業生などのゲストスピーカーの方々は、いずれも警察などで実務に携わっている方々です。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	法とまちづくり	科目コード	481405	授業コード	115803
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	PPL6001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。				
授業のねらい	この授業では、法とまちづくりの関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。 ゲストスピーカーとして、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、どのような法的な規範が作られ、それに基づいてまちづくりが行われているか、お話をいただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています				
到達目標	法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。				
授業計画	第1講 ガイダンス～法的な規範とまちづくりについて～ 第2講 法令と条例 第3講 産業をめぐるまちの現状と課題 第4講 グループワーク～産業をめぐる課題解決のためのルール～ 第5講 四日市市の産業と法規制（清水） 第6講 観光をめぐるまちの現状と課題 第7講 グループワーク～観光をめぐる課題解決のためのルール～ 第8講 四日市市の観光・シティプロモーションと法（中村） 第9講 市民生活をめぐるまちの現状と課題 第10講 グループワーク～市民生活をめぐる課題解決のためのルール～ 第11講 四日市市の市民生活を改善するための法規（室田） 第12講 文化をめぐるまちの現状と課題 第13講 グループワーク～観光をめぐる課題解決のためのルール～ 第14講 文化行政と法（田端） 第15講 まとめ・振り返り 定期試験（レポート提出）  ※ ゲストスピーカーの都合などにより、日程や内容が変更になる場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じて資料を配布する場合があります）				
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと（60分）。				
成績評価方法	授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。成績は以下の配分により評価します。 ・グループワークなどへの取組姿勢：40% ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況：36% ・定期試験（レポート）：24%				
授業内の課題・提出方法	グループワークを行わない回は、授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題（小レポート）を提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。				
アクティブラーニング	グループワークとその成果のプレゼンテーションをしてもらいます。				
実務経験のある教員	ゲストスピーカーの4人の方は、いずれも現役の市役所職員であり、市役所での実務に基づいた講義をしていただきます。				
担当者から一言	知識・情報をしっかり収集し、グループワークに積極的に参加するようにしてください。				

授業科目名	防災とまちづくり		科目コード	481406	授業コード	115307	
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	PPL6002			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド</p> <p>1 4/11 ガイダンス(対面)/補講1；近年の災害/第15講；地震・津波/第16講；風水害/第11講；復旧・復興</p> <p>2 4/18 第20講；災ボラ/第14講；事業継続/第6講；ハザードマップ</p> <p>3 4/25 補講2；耐震/第12講；医療/第18講；避難所</p> <p>4 各自 普通救命講習（市町の消防本部など） 自分の住む市町か、四日市市で、各自で申し込み受講し、修了証のコピーを提出する</p> <p>5～7 5/24 防災士養成講座（会場研修）① 8～10 5/25 防災士養成講座（会場研修）②</p> <p>11 5/24 第1講；地震・津波/第2講；気象災害/第3講；土砂災 12 5/31 第4講；火山/第5講；火災/第7講；情報と予報・警報 13 6/7 第8講；災害情報/第9講；行政/第10講；行政の対策 14 6/14 第13講；ライフライン/補講3；損害保険/第17講；自主防 15 6/21 第19講；多様性/第21講；防災士の役割/補講4；各種訓練</p> <p>学期末試験：7/4 ★8月3日(日)午後15時に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。						
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	地域福祉論	科目コード	481501	授業コード	115308
担当教員	松本 彩月	科目ナンバリング	PPC4001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	この授業では地域福祉の基本的な考え方を学びます。私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考える授業です。				
到達目標	地域福祉の基本的考え方、地域福祉における主体と対象、地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要（地域福祉とは） 第2講 コミュニティとネットワーク 第3講 地域福祉の財源 第4講 地域福祉の主体や担い手 小レポート1 第5講 地域福祉をプロ野球から考える ゲストスピーカー 第6講 災害と地域福祉 第7講 ボランティアリズム 第8講 少子高齢化 第9講 子育て支援と地域福祉 第10回 社会的養護と子どもの貧困 小レポート2 第11回 地域福祉と子育て支援を考える ゲストスピーカー 第12回 当事者組織・セルフヘルプグループ 第13回 協同組合 第14回 社会的孤立と社会的排除 第15回 生活保護 小レポート-3 定期試験 ※ゲストスピーカーの都合により前後する可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 加山弾・熊田博樹・中島修・山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣（2020） 動画などを視聴することもあります。				
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）				
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。				
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション				
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）				
担当者から一言	自分ごととして地域福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。				

授業科目名	社会保障論		科目コード	481502	授業コード	111804	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	PPC5002			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。						
到達目標	社会保障の役割と意義および課題、社会保障の基礎理論、歴史、財源を含む実施体制について、現代社会の動向も踏まえながら理解することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要（社会保障とは） 第2講 社会保障の歴史と現代社会の変化 第3講 社会保障の法と財政 第4講 公的年金って？ 第5講 医療保険って？ 第6講 介護保険って？ 小レポート-1 第7講 働くことと社会保障 第8講 生活保護 第9講 社会福祉 第10講 災害と社会保障 第11講 居住福祉 小レポート-2 第12講 沖縄の貧困と社会保障 第13講 多国籍社会の社会保障 第14講 ジェンダーと社会保障 第15講 ひとり親と社会保障 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 <参考文献> 春田吉備彦ほか『生きのびるための社会保障入門』堀之内出版（2023年）  動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会保障制度を知ることが今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	ダイバーシティ社会論		科目コード	481503	授業コード	112101	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PPC5001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	ダイバーシティ (divercity)、日本語では、多様性と訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。 年齢、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。 この授業では、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が尊重されるダイバーシティ社会の担い手としての資質						
到達目標	この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス：この講義の進め方 第2講 世界がもし100人の村だったら（グループワーク） 第3講 民族と国民国家 第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～ 第5講 日本における少数民族政策 第6講 もう一つの民族問題 在住外国人 第7講 日本における在住外国人政策 第8講 地域における在住外国人政策 第9講 セクシュアルマイノリティと「L G B T」 第10講 トランスジェンダーと性同一性障害 第11講 同性愛・両性愛と異性愛 第12講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策 第13講 性感染症をめぐる差別とタブー 第14講 ダイバーシティ経営 第15講 ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク） 定期試験  ※ ゲストスピーカーの都合などにより、順序が変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。 【参考文献】 小林慶太郎「L G B Tと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円+税						
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・ 定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
アクティブラーニング	授業時に、複数回グループワークを行うほか、課題として毎回ミニッツペーパーを記入してもらいます。						
実務経験のある教員	担当教員は、ダイバーシティ社会の実現に向けた三重県の委員会の委員等を数年にわたって務めています。また、ダイバーシティ社会実現に向けた活動をされている方を、ゲストスピーカーとしてお招きする予定です。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	市民社会論		科目コード	481504	授業コード	113209	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	PPC5003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、地域における住民主体の活動として、自治会・町内会・市民活動団体・地域自治組織などを取り上げる。少子高齢化や人口減少などの社会構造の変化により、地域では様々な課題を抱えており、住民による活動も多様化してきている。講義では、住民による活動の歴史、実情、今後の方向性と課題について、各地の実例などを踏まえて整理する。また実習を通じて、住民による新たな活動、社会への生かし方について考える力を養成することを目的とする。						
到達目標	1. 住民による活動が果たすべき役割と個人としての関わり方について理解する。 2. 地域に合わせた活動の運営手法について考察する力をつける。 3. 住民による活動と関わる人々との交流により、より豊かな人間性を身につける。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、市民社会とは  第2回 コミュニティ、自治会、町内会の役割  第3回 非営利組織と経営、社会福祉協議会とは  第4回 市民社会の政治的側面  第5回 排外主義、社会的排除  第6回 事例研究 町内会の取り組み  第7回 受け入れ先団体とのディスカッション  第8回 いなべ市内地域活動団体とのフィールドワーク事前学習①  第9回 いなべ市内地域活動団体とのフィールドワーク事前学習②  第10回 フィールドワーク①  第11回 フィールドワーク②  第12回 フィールドワーク③  第13回 フィールドワーク④  第14回 発表準備  第15回 発表・まとめ</p> <p>※受け入れ先及び講義登録者数によって、シラバスが変更になる場合があります。受け入れ先団体の方も座学講義に参加する場合があります。  ※いなべ市内にてフィールドワークを行います但交通費は実費になります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	事前学習では、地元のまちづくり活動を調べる（30分）。 住民活動に関連した図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。						
成績評価方法	参加意欲、コメントカード 10%（グループワーク含む） 発表・レポート①20%、レポート②10%、最終発表20% 最終レポート 40%						
授業内の課題・提出方法	事例研究として、町内会の住民活動に関する課題を発表・提出してもらう。 最終講義では本授業での学びを発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートまた報告会では、適宜コメントする。						
アクティブラーニング	ミニツツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）						
担当者から一言	自分ごととして地域について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。フィールドワークにはしっかり参加してください。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます						

授業科目名	市民とまちづくり		科目コード	481505	授業コード	115706	
担当教員	小林 慶太郎、鬼頭 浩文		科目ナンバリング	PPC6001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。</p> <p>多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。</p>						
授業のねらい	<p>この授業では、市民が主体となって地域の活性化や魅力発信などの「まちづくり」に取り組むことの大切さを、いくつかの事例を中心に考えていきます。まちづくりに携わっている方々に教室に来ていただいて話を聞き、実際にスタッフとしてイベントに参加することを通じて、まちづくりを学びます。</p> <p>今年度は、市民ボランティアが中心になって開催されている「四日市JAZZフェスティバル」、三重からJリーグを目指して市民で盛り上げるスポーツクラブ「ヴィアティン三重」、四日市大学生の発案でスタートし定着した三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」を取り上げます。学生諸君が、市民主体のまちづくり活動の実際を、五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	市民主体のまちづくりの活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	<p>第1講（9/26）ガイダンス（鬼頭・小林）</p> <p>第2講（10/3）四日市JAZZフェスティバルと地域活性化（実行委員長）</p> <p>第3講（10/10）イベントとまちづくり（鬼頭・小林）</p> <p>第4講（10/16(木)5限）JAZZフェスに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会、鬼頭・小林）</p> <p>第5～7講（10/18-19）フィールドワーク（JAZZフェスへのスタッフとしての参加を3コマとしてカウント）</p> <p>第8講（10/24）スポーツクラブ経営(ヴィアティン三重社長)</p> <p>第9講（10/31）スポーツクラブとまちづくり(ヴィアティン三重スタッフ)</p> <p>第10講（11月中の週末 日程未定）フィールドワーク（ヴィアティン三重ホームゲームの場外イベントへのスタッフとしての参加を1コマとしてカウント）</p> <p>第11講（11/28）イベントとまちづくり（鬼頭・小林）</p> <p>第12講（12/5）北勢線サンタ電車とローカル鉄道（三岐鉄道職員）</p> <p>第13講（12/12）コミュニティバスと鉄道の連携（東員町担当者）</p> <p>第14講（12/19）サンタ電車運行準備と打ち合わせ（三岐鉄道職員、鬼頭・小林）</p> <p>第15講（12/20）フィールドワーク（北勢線サンタ電車へのスタッフとしての参加を1コマとしてカウント）</p> <p>※ 都合により授業計画が変更になる可能性があります。掲示等注意して見るようにしてください。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	JAZZフェスのパンフレット、サンタ電車の資料などの配布を予定しています						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちに資料やネットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	フィールドワークに取り組む姿勢・パフォーマンス40%、授業内で課す課題30%、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義の際には小レポートを、フィールドワークの際はその振り返りレポートを、それぞれ課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、翌週以降の授業中にコメントを返していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、フィールドワークが重要な要素となっている。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、実際にまちづくりに関わっている方であり、フィールドワークの際にも指導いただく。なお、授業の担当者である鬼頭、小林も、それぞれ市民団体の代表として、まちづくりの実務に携わっている。						
担当者から一言	最も重要なフィールドワークに参加できない学生には、原則として単位は与えられませんので、履修登録の際には注意してください。						

授業科目名	簿記入門		科目コード	482103	授業コード	115606	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMR2003			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	簿記は株式会社などの企業、小規模な店舗、官公庁といった各種組織・機関で行われている幅広い事業活動をお金の面で記録する技術であり、また財務諸表（決算書）を作る基盤でもあります。この「簿記入門」の授業では、簿記や財務諸表の基礎、勘定科目、仕訳などを学びます。皆さんが就職後、簿記の対象となる取引にどう関わるかは人それぞれですが、まったく関わらない人はいないはずで、就職後に自分が働くことをイメージしながら、簿記という技術体系の基礎を理解することがこの授業のねらいです。						
到達目標	(1) 日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」と「諸取引の処理」に関する問題を解ける……日商簿記検定3級は他の資格と比べて学びやすく、学習した時間数が獲得できる知識量、そして合格につながりやすい資格だと言えます。日商簿記検定3級試験のほぼ半分の問題を解けるだけの知識修得を目指しましょう。 (2) 「学び方」を学ぶ……幅広く応用が効く、「学び方」を学びましょう。「学び方」を学んでいるかどうかは採用担当者が近年、特に重視するポイントです。就職後の学び力を養うために「学び方」を学ぶことも、この「簿記入門」の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 簿記の意義（テキストのテーマ01）、財務諸表と簿記の5要素（同02） 第3講 日常の手続き（同03） 第4講 商品売買1（同04） 第5講 商品売買2（同05） 第6講 現金・預金（同06）、小口現金（同07） 第7講 クレジット売掛金（同08）、手形取引（同09） 第8講 中間試験、電子記録債権・債務（同10） 第9講 その他の取引1（同11） 第10講 その他の取引2（同12）、減価償却（同20の一部） 第11講 その他の取引3（同13） 第12講 さまざまな帳簿の関係（同14） 第13講 試算表（同15） 第14講 証ひょう（同31）、伝票（同32） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：2200円（税込） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込） 日建学院「ネット試験対応 日商簿記3級 過去問+予想問題解説集 2024-2025年版」日建学院（2024年）、定価：1320円（税込）						
事前・事後学習	簿記は知識を一つひとつ積み上げていくことで理解できる科目です。欠席すると次週以降の理解がかなり難しくなります。欠席しないことを第一に、欠席したらその日の内容をテキストで必ず自習してください。 継続的な繰り返し学習が効果的です。「近道は遠道」「走れば転ぶ」「急がば回れ」と心得て、コツコツ学びましょう。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと（90分）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。						
成績評価方法	(1) 中間試験（第8講で実施予定）：30% (2) 課題：30% (3) 定期試験：40% 「簿記入門」は日商簿記初級に合格できるレベル、もしくは日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」「諸取引の処理」に関する問題で合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、それらの検定試験に準じます。						
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleまたはメールで提出してもらいます（計3回）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。優れた課題については授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。 テキストの発行がシラバス登録の後であるため、授業計画が一部変更になる可能性があります。						

授業科目名	経営ケーススタディ	科目コード	482205	授業コード	113610
担当教員	岡 良浩、川崎 綾子	科目ナンバリング	PMO6002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。具体的には「三重のサステナブル経営アワード」をとりあげ、受賞企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。またこの制度を含めた中小企業振興施策を実施されている三重県庁の方や、教員からみた経営のケーススタディについてもお話す予定です。全体として成功の要因について、共通する点・他企業・他業態への応用の可能性など普遍化できるかを考察していきたいと思えます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営の成功事例を理解する。</li> <li>・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。</li> </ul>				
授業計画	第1回 9/24 ガイダンス 第2回 10/1 外部講師による講義（三重県） 第3回 10/8外部講師（企業経営者）による講義① 第4回 10/15外部講師（企業経営者）による講義② 第5回 10/22中間レポート1 第6回 10/29 外部講師（企業経営者）による講義③ 第7回 11/5外部講師（企業経営者）による講義④ 第8回 11/12外部講師（企業経営者）による講義⑤ 第9回 11/19 中間レポート2 第10回 11/26外部講師（企業経営者）による講義⑥ 第11回 12/3 外部講師（企業経営者）による講義⑦ 第12回 12/10 外部講師（企業経営者）による講義⑧ 第13回 12/17中間レポート3 第14回 1/7 まとめ1 第15回 1/14まとめ2 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、適宜、講義中にお知らせします。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。				
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。				
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポート 30% 定期試験（レポート試験） 30%				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただきます。授業中に中間レポートを作成します。（いずれもMoodleを利用予定）				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、Moodle内でコメントをつけてフィードバックします。				
アクティブラーニング	講義中に、質疑やグループディスカッション等が求められることがあります。積極的に参加することが求められます。				
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。				
担当者から一言	この講義は公開授業とする予定です。一般の方と一緒に受講していただきます。履修者は、社会人としてのマナーを守って受講してください。				

授業科目名	マーケティング実践論		科目コード	482307	授業コード	112408	
担当教員	川崎 綾子		科目ナンバリング	PMM6002			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では、成功企業の事例を理解した上で、企業のマーケティング戦略について考察する。考察を通じて、実践的なマーケティングの理解を深めることを、本講義のねらいとする。						
到達目標	成功企業の事例について学んだ上で、その企業を成功に導いた根本的な理由について考察する。その上で、他のビジネスへの応用可能性について検討する。既存のマーケティング戦略の改善案や新たな戦略案を提示できる。						
授業計画	<p>第1回 4/8 ガイダンス</p> <p>第2回 4/15 マーケティングの基本的な考え方</p> <p>第3回 4/22 マーケティングの分析軸</p> <p>第4回 4/29 事例研究①</p> <p>第5回 5/13 事例研究②</p> <p>第6回 5/20 中間レポートの発表①（予定）</p> <p>第7回 5/27 中間レポートの発表②（予定）</p> <p>第8回 6/3 中間レポートの発表③（予定）</p> <p>第9回 6/10 事例研究③</p> <p>第10回 6/17 事例研究④</p> <p>第11回 6/24 事例研究⑤</p> <p>第12回 7/1 事例研究⑥</p> <p>第13回 7/8 最終レポートの作成と発表①</p> <p>第14回 7/15 最終レポートの作成と発表②</p> <p>第15回 7/22 最終レポートの作成と発表③</p> <p>※外部講師によるご講義の回を予定しています。 （第1回のガイダンス時に詳細を説明予定です） ただし川崎による講義に代える場合があります</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>教科書（テキスト）</p> <p>大崎孝徳（2016）『すごい差別化戦略』日本実業出版社</p> <p>ISBN-13：978-4534053480</p>						
事前・事後学習	マーケティングや企業経営に関するニュースに目を通すことを心がけること（30分程度、週2日以上）。講義内容を復習し、既存のマーケティング戦略の長所や短所について考える時間をもつことが望ましい（1時間程度）。						
成績評価方法	<p>中間レポートと発表 50%</p> <p>最終レポート（レポート試験）と発表 50%</p> <p>※レポートの内容だけでなく、発表態度や発表を聴く態度も含む。 受講者数が多く、発表の時間が取れない場合は レポートの内容と聴講態度で評価する</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>①毎回の出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること</p> <p>②中間レポートと最終レポートも、moodleから提出してもらう予定。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>中間レポートについては、講義中にコメントします。 履修者数が多く、全員の発表時間が取れない場合は 優秀な中間レポートを、前のスクリーンで紹介する予定です。</p>						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして企業のかたにご講義いただく予定です						
担当者から一言	<p>実践的なマーケティングを学ぶ機会になれば幸いです。自ら進んで学ぶ姿勢をもって取り組める人は、是非受講してください。</p> <p>※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、 2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります。</p>						

授業科目名	会計学総論		科目コード	482401	授業コード	113808	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA4001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この「会計学概論」では、会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を学びます。会計学が対象とする領域は幅広く、財務諸表論、管理会計論、経営分析論などへと細分化されます。それらのどの領域、さらに経営学、経済学、金融論などの一部にも通底する《過去を未来に知恵として伝えようとする意志》を感じ取りながら、会計学の全体像を理解していくことをこの授業のねらいとします。						
到達目標	(1) 会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を身につける……2年次・3年次に配当されている「財務諸表論」「管理会計論」「経営分析論」で学びを深められるよう、この授業で全体像をつかんでおきましょう。 (2) 就職後の仕事ではもちろん、1人ひとりの生活者として生きていくさいにも会計的な視点で考えられるようになる……会計的な視点で考えることは仕事だけでなく個人の生活にも大きな恩恵をもたらしてくれます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計の目的 第3講 会計基準と会計制度 第4講 企業経営と会計 第5講 貸借対照表1 第6講 貸借対照表2 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 会計原則 第10講 キャッシュ・フロー計算書 第11講 経営分析 第12講 家計（個人）にとっての会計 第13講 ファイナンスと会計 第14講 会計と監査 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 桜井久勝「会計学入門〈第5版〉」日本経済新聞出版（2018年）、定価：946円（税込） 川本淳ほか「はじめて出会う会計学 第3版」有斐閣（2022年）、定価：2310円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として新聞（特に日本経済新聞）や雑誌などで、企業に関する記事を読むようにしてください。最初はわからない用語ばかりですが、そうした用語をメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また授業で学んだことを使って、実存する企業の財務諸表などを使って小レポートを作成してください（90分）。						
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) 小レポート：20% (3) 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第9講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。小レポートはMoodleまたはメールで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと小レポートについては全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、財務面のレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	金融論	科目コード	482402	授業コード	113211
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PMA4002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	この「金融論」では、私たちの社会にとってはなくてはならない金融を学びます。私たちは誰しも、さまざまなかたちで金融の恩恵を受けて毎日、生活できています。その仕組みは非常に複雑で高度に進化していますが、この講義では初めて金融を学ぶかたを対象にして金融の基盤的な知識を修得することをねらいとします。全15回の授業のうち7回はゲストスピーカーを招きます。さまざまな金融の現場をよく知るゲストスピーカーから、生きた金融を講義で話してもらいます。				
到達目標	(1) 金融の基盤的な知識を修得する (2) 自分自身のライフプランやマネープランを考え、実践するための知識を修得する				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ライフプラン (二村) 第3講 金融と経済の基礎知識 (1) (二村) 第4講 金融と経済の基礎知識 (2) (二村) 第5講 ライフデザインと資金調達 (東海財務局津財務事務所) 第6講 金融トラブルと投資のリスク (東海財務局津財務事務所) 第7講 お金を借りる (二村) 第8講 お金を稼ぐ (二村) 第9講 日本経済の中の銀行の役割～中央銀行と民間金融機関～ (鷲山さん) 第10講 お金を増やす (マネックス証券) 第11講 生活設計とリスク管理 (生命保険協会) 第12講 生命保険の基礎知識 (生命保険協会) 第13講 政府系金融機関と地域金融機関 (脇田さん) 第14講 金融界の動向 (二村) 第15講 まとめ (二村)				
テキスト・教材 (参考文献)	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 家森信善「金融論 第3版」日本経済新聞出版 (2022年)、定価：2420円 (税込)				
事前・事後学習	事後学習として授業の内容を復習してください。授業の内容が自分にはどう関係するか考え、自分自身のファイナンシャル・プランニングに落とし込んでください。また週に1時間程度は図書館で日本経済新聞や経済系雑誌などで金融に関する記事 (最新の記事でなくても構いません) を探し、じっくりと読んでください。記事のなかにわからない用語があれば、複数の文献で調べてください (180分)。				
成績評価方法	(1) 各回のレポート：50% (2) 課題 (3回+1回)：50% (小課題10%×3回+期末課題20%×1回)				
授業内の課題・提出方法	課題のファイルをメールまたはMoodleで提出してもらいますが、外部講師の回ではそれ以外の提出方法とすることがあります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回のレポートについては、全体の講評を授業で行います。				
アクティブラーニング	自分自身の簡易なライフプランなどを作ってもらいます。				
実務経験のある教員	ファイナンシャル・プランニング技能士2級とAFPというという資格で長年、お金に関するコンサルティングを行ってきました。				
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。ゲストスピーカーの都合により、講義の内容および順序が変更になることがあります。				

授業科目名	財務諸表論		科目コード	482403	授業コード	115708	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA5001			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	ビジネス界の共通言語とも言われる会計、その中心となる財務諸表（決算書）について学ぶのが、この「財務諸表論」です。「財務諸表論」のねらいは財務諸表を《読む》ためや《使う》ために、財務諸表が作られるさいのルール、各財務諸表の構成や関係を学ぶことです。授業を通して各財務諸表が何を示しているのかを理解しましょう。同時に、何を示して（示せて）いないのかを考えると、財務諸表のおもしろさを見つけられるかもしれません。						
到達目標	<p>(1) 財務諸表を読むための基礎的な知識を身につける……「難しそう」という印象を持たれやすい財務諸表ですが、ポイントを押さえれば読むのは難しくありません。</p> <p>(2) さまざまな立場のさまざまな目的で財務諸表を使うための実践的なスキルを修得する……たとえば経営者が株主を増やすため、1人の従業員が未知の企業と取引を検討するため、また個人が株式投資をするためなど、財務諸表を使えるようになりましょう。</p> <p>(3) 公開情報から有用なものを取捨選択し、効果的に報告する能力を獲得する……財務情報は容易に手に入ります。それを価値あるデータとしていかす術を身につけてください。</p>						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 財務諸表を作るねらい 第3講 財務諸表の構成 第4講 貸借対照表1 第5講 貸借対照表2 第6講 貸借対照表3 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 損益計算書3 第10講 キャッシュ・フロー計算書1 第11講 キャッシュ・フロー計算書2 第12講 株式会社の設立・資金調達～仕入・生産活動 第13講 株式会社の営業・販売活動～設備投資・研究開発 第14講 会計と経営 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。  参考文献： 日本経済新聞社「財務諸表の見方 第14版」日本経済新聞出版（2023年）、定価：1100円（税込） 金子智朗「教養としての「会計」入門」日本実業出版社（2023年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください（90分）。						
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) レポート：30% (3) 定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第7講・第10講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。レポートはメールまたはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストとレポートについては全体の講評を授業で行います。また優れたレポートは授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務面などで比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	管理会計論		科目コード	482404	授業コード	113509	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA5002			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この「管理会計論」では、主に企業の内部で自主的に行われる、会計の観点でのマネジメントについて学びます。管理会計は、部署や担当にかかわらず、企業のなかで働く人すべてに密接に関係するものです。管理会計の考え方やフレームワークなどを学び、卒業後に学んだことをビジネスの現場で使えることを目指します。						
到達目標	管理会計の考え方やフレームワークを正しく理解し、将来、自分が働く企業の現場などで、それらをそれぞれの現場に合わせたうえで使えることを到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 管理会計とは何か 第3講 原価計算（1） 第4講 原価計算（2） 第5講 損益分岐点分析（1） 第6講 損益分岐点分析（2） 第7講 バランススコアカード 第8講 中間テスト/ABCとABM 第9講 加重平均資本コスト（1） 第10講 加重平均資本コスト（2） 第11講 現在価値と将来価値 第12講 意思決定（1） 第13講 意思決定（2） 第14講 事業ポートフォリオマネジメント 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 加登豊、梶原武久「管理会計入門 第2版」日本経済新聞出版（2017年）、定価：1100円（税込） 浅田孝幸ほか「管理会計・入門 戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング 第4版」有斐閣（2017年）、定価：2530円（税込）						
事前・事後学習	「管理会計論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」「経営分析論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。日本経済新聞やビジネス系雑誌などで企業に関する記事を読むと、会計と経営管理を関連づけて考える材料が多く見つかるはずです。週に1時間程度は図書館などで企業やビジネスに関する新聞・雑誌の記事に触れてください（180分）。						
成績評価方法	(1) 中間テスト・平常点（受講態度など）：30% (2) 課題（2回）：30%（15%×2） (3) 定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	課題のファイルをMoodleまたはメールで提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間テストについては全体の講評を授業で行います。課題については希望者に個別のフィードバックをします。						
アクティブラーニング	授業で取り上げた内容に関する新聞・雑誌記事を探し、その要約や解説をしてもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	経営分析論		科目コード	482405	授業コード	115203	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA6001			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この「経営分析論」では企業の決算書（財務諸表）などを使って分析することを学びます。第4講までで財務諸表のなかでも特に重要な貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の要点を理解しましょう。次に経営（財務）分析の手法や指標の意味・使い方を観点ごとに学びます。第10講以降は、実存する企業の公開されている財務諸表を使って分析します。ライバルである企業どうしの比較などで経営分析についての理解を深め定着させてください。						
到達目標	(1) 財務諸表の要点を理解する。 (2) 経営分析の手法を財務諸表の各項目の意味と合わせて理解する。 (3) 企業の財務諸表だけでなく、ビジネスモデルや競争戦略なども考慮して経営分析ができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 貸借対照表 第3講 損益計算書 第4講 キャッシュ・フロー計算書 第5講 経営分析のための準備 第6講 安全性の分析 第7講 収益性の分析 第8講 効率性の分析 第9講 成長性の分析 第10講 ケース (1) 連結決算 第11講 ケース (2) セグメント情報とビジネスモデル 第12講 ケース (3) 小売・飲食・サービス 第13講 ケース (4) IT 第14講 ケース (5) メーカー 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献：桜井久勝「財務諸表分析 第9版」中央経済社（2024年）、定価：3740円（税込）						
事前・事後学習	「経営分析論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。そのうえで、上場企業の財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください。また日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（180分）。						
成績評価方法	(1) 小テスト・平常点（受講態度など）：30% (2) 課題（2回）：30%（15%×2） (3) 定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第8講・第10講予定）実施します。課題はMoodleまたはメールで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと課題については全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務・ビジネスモデル・競争戦略などの比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	商業簿記		科目コード	482406	授業コード	115404	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA6002			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この授業では「簿記入門」に続き、日商簿記検定3級の内容、具体的には「決算」と「株式会社社会計」を学びます。3級試験に合格できる簿記知識の修得がねらいです。また企業の事業活動や社会・組織のなかで行われている、さまざまな取引やお金に関する管理手法を学ぶこともねらいです。600年以上も使われ続け、ゲーテも高く評価した簿記（現在の複式簿記）の洗練と優美さを感じ取ってください。 ※ゲーテ（ドイツの詩人、劇作家。1749-1832）の『ウィウヘルム・マイスターの修業時代』という小説には複式簿記を「人類の最も見事な発明の一つだ」と評価する一節があります。						
到達目標	(1) 日商簿記検定3級の「決算」と「株式会社社会計」に関する問題を解ける……「簿記の基本原則」と「諸取引（期中取引）の処理」を学んだ「簿記入門」とあわせて、この「商業簿記」を履修すれば、3級試験の出題範囲をすべて学べることになります。履修後には3級試験の受検を強くおすすめします。 (2) 簿記・会計の考え方を理解する……簿記・会計には、企業などの事業活動をお金の面でもとらえるにあたって私たちに馴染みのある一般的な考え方は異なる。独特の考え方があります。そうした考え方を理解することは、企業経営、経済や金融について理解する一助となるはずです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 決算（テキストのテーマ16） 第3講 決算整理1 現金過不足（同17） 第4講 決算整理2 売上原価（同18） 第5講 決算整理3 貸倒れ（同19） 第6講 決算整理4 減価償却（同20） 第7講 決算整理5 貯蔵品（同21）、決算整理6 当座借越（同22） 第8講 決算整理7 経過勘定項目（同23） 第9講 中間試験 第10講 決算整理後残高試算表（同24） 第11講 精算表（同25） 第12講 帳簿の締め切り（英米式決算）（同26）、損益計算書と貸借対照表（同27） 第13講 株式の発行（同28）、剰余金の配当と処分（前半）（同29） 第14講 剰余金の配当と処分（後半）（同29）、税金（同30） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト： TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）（2024年度後学期の「簿記入門」で使用したテキスト） 入手できなければ、同著者、同出版社、同価格の「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）でも可 参考文献（問題集）： TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円）またはTAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：1650円）						
事前・事後学習	「商業簿記」の履修には「簿記入門」を先行して履修していること、もしくは日商簿記初級の学習経験を持つことが望ましいです。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと。授業では要点の確認、疑問点の解消だけに集中できるくらいまでテキストを読み込んでおくことが望ましいです（90分以上）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。 細切れの時間をうまく使って、簿記を毎日学習する習慣をつけましょう。						
成績評価方法	(1) 中間試験（第9講で実施予定）：30% (2) 課題：30% (3) 定期試験：40% 「商業簿記」は、「簿記入門」の学習内容とあわせて日商簿記検定3級に合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、日商簿記検定3級に準じます。						
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。また優れた課題については授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。						